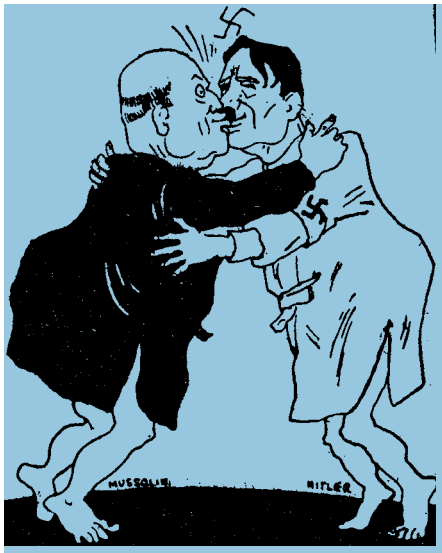
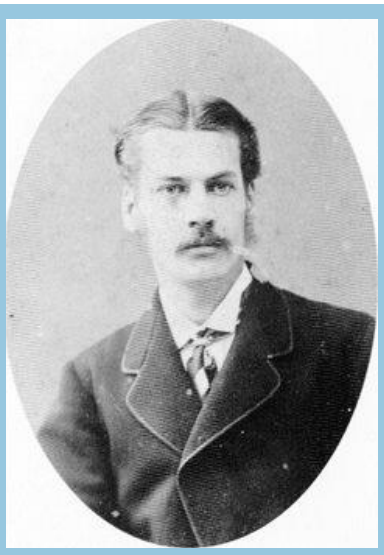




Edition Synapse / Eureka Press

日本国際政治学会

2022 年度大会　特別販売

＝本カタログ中の書籍全点 20％割引き＝

特別販売期間：2022 年 12 月末迄

発行元：**Edition Synapse**
（エディション・シナプス）
〒 100-0014　東京都千代田区永田町 2-17-5-201
Tel: 03-6257-1030　Fax: 03-5521-0026　http: //www.aplink.co.jp/synapse

世界の新聞・雑誌の風刺漫画から歴史を読み解く好評シリーズ、第 3 期発刊

万国風刺漫画大全

第 3 期：戦間期の世界

【復刻集成版】全 3 巻＋別冊

Caricatures and Cartoons: A History of the World 1921-1930

■編集・解説■ 橋本順光（大阪大学文学部）

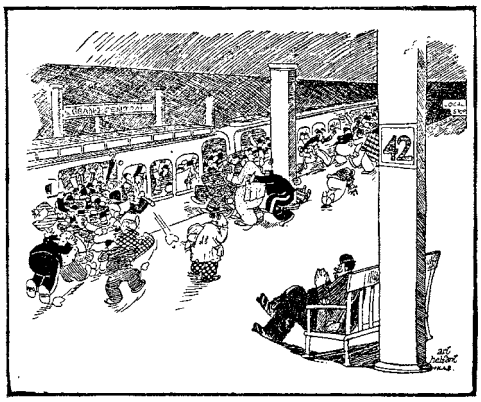
[British Satirical Periodicals of the Nineteenth Century Series IV]

2018 年 11 月刊行　B5 判・1620 ページ 上製　本体セット価 ￥138,000-（＋税） ISBN 978-4-86166-196-9

●世界各国で発行された雑誌、新聞の風刺画コレクションのシリーズ第 3 期は、第一次大戦終戦から 10 年間の戦間期を対象にし、世界 35 か国で刊行された約 360 紙誌から、*The Review of Reviews*『評論の評論』誌に転載された 4700 点以上の風刺漫画を集成。

●アイルランドやインドでの独立運動など、大英帝国の没落と米ソの台頭が顕著となるこの時代、欧米のメディアだけでなく、インドの *Hindi Punch*、中国の *North China Herald*、日本の『大阪パック』などアジアも含めた各国のプロパガンダとしての風刺漫画が増す一方、20 年代前半の政治的な小康状態を反映し、解放された女性たちやそのファッションを揶揄する漫画や、チャップリンのような映画スター、アインシュタインのような科学者やスポーツ選手が風刺の対象として登場、漫画のスタイルも今日の表現方法に近づき大きく変化してゆく。

● 20 年代後半になるとファシズムを生む要因の一つとなった移民問題を風刺する漫画なども増加し、ムッソリーニに続いてヒトラーが登場、短かった平和の時代の終焉と第 2 次大戦へ向かう世界が、この風刺漫画コレクションを通して視覚的にはっきりと読み取れる。



Judge] [New York
Tramp : " I'm darn glad that I haven't any home to go to ! "

■好評既刊■ 第 1 期：世紀転換期の世界　全 3 巻＋別冊

Caricatures and Cartoons, 1890-1905: A History of the World

B5 判・約 1,200 頁　本体セット価￥118,000-（＋税） ISBN: 978-4-86166-186-0 **在庫僅少**

第 2 期：戦争の世紀の幕開け　全 4 巻＋別冊

Caricatures and Cartoons: A History of the World 1906-1920

B5 判・総 1,970 頁　本体セット価￥148,000-（＋税） ISBN: 978-4-86166-195-2 **在庫僅少**

ファシズムの時代を諷刺した世界各国の雑誌・新聞漫画約 3,200 点を収録

万国風刺漫画大全

第４期：第二次大戦へ向かう世界

【復刻集成版】全３巻＋別冊

Caricatures and Cartoons: A History of the World 1931-1940

■編集・解説■ 橋本順光（大阪大学文学部）

[British Satirical Periodicals of the Nineteenth Century Series V]

2020 年 10 月刊行　B5 判・総約 1,660 頁
本体セット価￥138,000-（+ 税）　ISBN: 978-4-86166-197-6

- 19 世紀末から 1940 年までの世界の風刺画コレクションシリーズが完結。
- 第４期では、第二次世界大戦前の 10 年間を対象に、世界 38 か国で刊行された約 380 紙誌から、*The Review of Reviews*『評論の評論』誌に転載された 3,200 点以上の風刺漫画を集成。
- 欧米の主要な全国紙だけでなく地方紙やその他諸国でも数多く諷刺されたヒトラー、ムソリーニ、日本の軍事主義、日中戦争、カンジーとインド独立運動などに関する世界各地の風刺漫画が満載。
- 政治問題に加えて、経済、貿易、教育や文化芸術、女性や人種問題など戦前期の国際社会のあらゆる側面を映し出した視覚資料集。
- シリーズ全 13 巻で 1890 年から半世紀の諷刺漫画 18,000 点以上を収録。

第４期収録漫画の主な風刺テーマ

- ナチスの台頭・ファシズム・共産主義
- 大恐慌の拡大・死の商人・大英帝国の衰退
- アジアの諷刺漫画（中国のサパジュ・インドのシャンカー）
- 日本の軍事主義化・日中戦争・ガンジーとインド独立運動
- 国際連盟・軍縮会議
- 反ユダヤ主義・人種問題
- ベルリンオリンピック・スポーツ
- 映画・性・検閲
- モダンな女性・社会風俗など

マティルド夫人（初代イタリア公使夫人）の日本内地紀行　全２巻

The Travel Journals of Mathilde, Contessa Sallier de La Tour into the Interior of Japan, 1867-1870 including Letters, Notes and Sketches

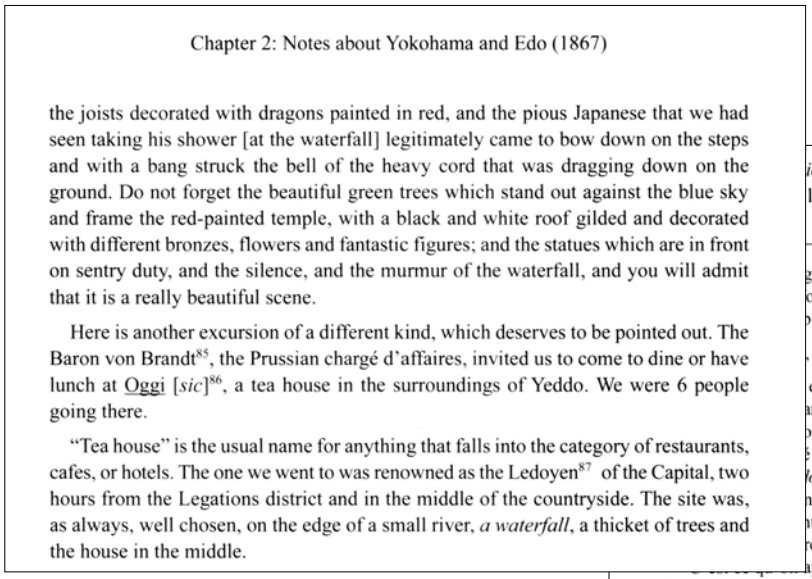
編集・解説：Giulio Antonio BERTELLI（ベルテッリ ジュリオ アントニオ 大阪大学言語文化研究科）

2021 年 1 月刊行　クロス装 B5 判・総約 610 頁（全 2 巻）＊図版多数（一部カラー）含む
本体セット価：￥78,000（＋税）＊限定 100 部出版　ISBN：978-4-86166-223-2

新 刊

イザベラ・バードの約 10 年前、明治 2 年に西洋人女性として初めて日本内地を旅し記録した、マティルド夫人の手稿の待望の公刊。

- 旅の日誌に加え、スケッチブックや書簡、横浜・江戸での生活記など、6 つの文書（ド・ラ・トゥール家に残るマティルド夫人の日本関連文書全点）のフランス語翻刻とその英訳に、2 か国語の解説、解題、註を加えた学究版。多数の図版入り。
- 戊辰戦争終結直後、いまだ大きな危険が伴う居留地外への初の外国視察団だったイタリア養蚕地視察団に同行し、数年後（明治 5 年）に富岡製糸場が設立される地域を含む関東北部養蚕業の中心地（上尾、前橋、渋川、大宮、八王子、町田等）を 20 日かけて旅した日誌。各地の人々の生活、風俗の克明な記録と旅行中に描いたスケッチを含む。
- 併録される居留地のノートは、イタリア公使館の整備に奔走する夫人の日常、英国公使パークス一家やフランス公使ロッシュをはじめとする横浜の要人との交流など、開国期の外交官の生活や幕末・維新史の裏側を語る貴重な情報源。
- また、イタリアの家族、友人に宛てた、日本へ向かう船旅や日本・中国滞在中の本音を吐露する書簡や、明治 2 ～ 3 年の大阪、神戸、瀬戸内海、長崎から上海、厦門、香港への旅を中心とした旅行記も収録。
- 本資料がイタリアで発見された後、2017 年には研究者間だけでなく日本の新聞紙上でも話題となったが、私文書の上、判読の非常に難しいフランス語手稿であったため、その詳細を知ることは困難であった。本書は長年にわたる編者の原資料の解読、調査、研究をまとめ公刊するもので、幕末・明治期の西洋と日本の研究に新たな一石を投じる画期的出版。



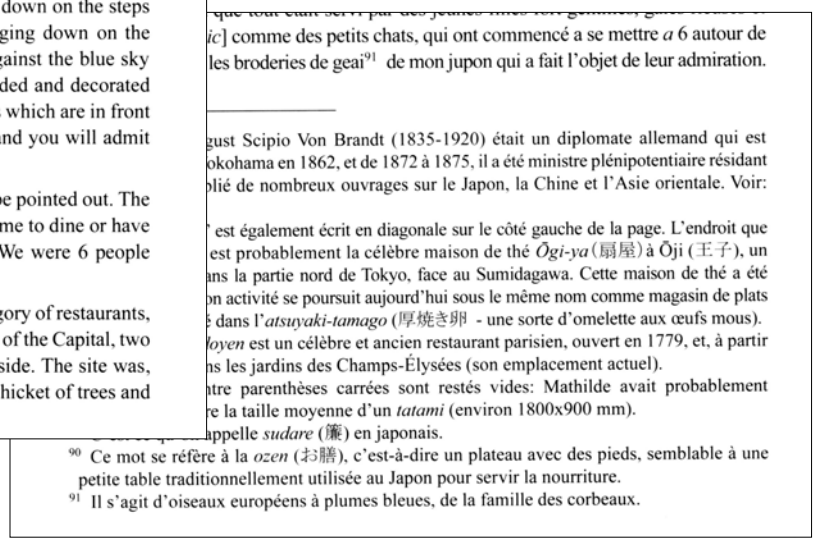
Chapter 2: Notes about Yokohama and Edo (1867)

the joists decorated with dragons painted in red, and the pious Japanese that we had seen taking his shower [at the waterfall] legitimately came to bow down on the steps and with a bang struck the bell of the heavy cord that was dragging down on the ground. Do not forget the beautiful green trees which stand out against the blue sky and frame the red-painted temple, with a black and white roof gilded and decorated with different bronzes, flowers and fantastic figures; and the statues which are in front on sentry duty, and the silence, and the murmur of the waterfall, and you will admit that it is a really beautiful scene.

Here is another excursion of a different kind, which deserves to be pointed out. The Baron von Brandt[85], the Prussian chargé d'affaires, invited us to come to dine or have lunch at Oggi [*sic*][86], a tea house in the surroundings of Yeddo. We were 6 people going there.

"Tea house" is the usual name for anything that falls into the category of restaurants, cafes, or hotels. The one we went to was renowned as the Ledoyen[87] of the Capital, two hours from the Legations district and in the middle of the countryside. The site was, as always, well chosen, on the edge of a small river, *a waterfall*, a thicket of trees and the house in the middle.

フランス語手稿の翻刻と英訳、序文、各文書の解題、注釈などすべて英仏二か国語にて記載しています。



ic] comme des petits chats, qui ont commencé a se mettre *a* 6 autour de
les broderies de geai[91] de mon jupon qui a fait l'objet de leur admiration.

gust Scipio Von Brandt (1835-1920) était un diplomate allemand qui est
okohama en 1862, et de 1872 à 1875, il a été ministre plénipotentiaire résidant
blié de nombreux ouvrages sur le Japon, la Chine et l'Asie orientale. Voir:

est également écrit en diagonale sur le côté gauche de la page. L'endroit que
est probablement la célèbre maison de thé *Ōgi-ya* (扇屋) à Ōji (王子), un
ns la partie nord de Tokyo, face au Sumidagawa. Cette maison de thé a été
n activité se poursuit aujourd'hui sous le même nom comme magasin de plats
dans l'*atsuyaki-tamago* (厚焼き卵 - une sorte d'omelette aux œufs mous).
oyen est un célèbre et ancien restaurant parisien, ouvert en 1779, et, à partir
ns les jardins des Champs-Élysées (son emplacement actuel).
tre parenthèses carrées sont restés vides: Mathilde avait probablement
re la taille moyenne d'un *tatami* (environ 1800x900 mm).
ppelle *sudare* (簾) en japonais.

[90] Ce mot se réfère à la *ozen* (お膳), c'est-à-dire un plateau avec des pieds, semblable à une petite table traditionnellement utilisée au Japon pour servir la nourriture.

[91] Il s'agit d'oiseaux européens à plumes bleues, de la famille des corbeaux.

プロイセン代理公使フォン・ブラントと王子の扇屋で日本料理を会食した際の日誌

CONTENTS

Volume 1: [手稿フランス語翻刻および解説、写真、スケッチ]

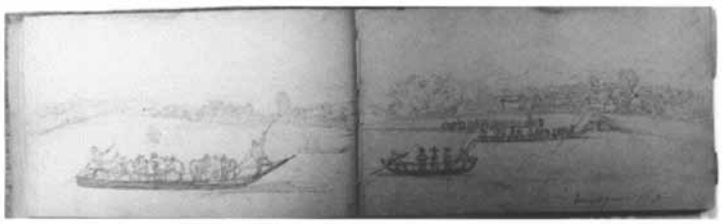
Transcriptions of Mathilde's Manuscripts in French & Sketchbook
Images and Photographs & Manuscripts
Preface & General Introduction (in French)
Acknowledgements & Editorial Notes (in French)
Part I: Le cahier de croquis de Mathilde / Mathilde's Sketchbook (1869)
Part II: Transcriptions of Mathilde's Notes, Letters and Travel Journals
Chapitre 1: Le voyage jusqu'au Japon - Égypte et Asie (avril-juin 1867)
Chapitre 2: Notes à propos de Yokohama et Edo (1867)
Chapitre 3: Cinq lettres envoyées du Japon et de la Chine (1867-70)
Chapitre 4: Une expedition dans l'intérieur du Japon (8-28 juin 1869)
Chapitre 5: Le voyage dans la mer intérieure du Japon et en Chine (1869-70)

Volume 2: [手稿英訳および解説、参考文献、索引]

English Translations of Mathilde's Writings
Preface & General Introduction (in English)
Acknowledgements & Editorial Notes (in English)
Part III: Translations of Mathilde's Notes, Letters and Travel Journals
Chapter 1: The Journey to Japan - Egypt and Asia (April-June 1867)
Chapter 2: Notes about Yokohama and Edo (1867)
Chapter 3: Five Letters sent from Japan and China (1867-70)
Chapter 4: An Expedition into the Interior of Japan (June 8th-28th, 1869)
Chapter 5: A Journey in the Inland Sea of Japan and China (1869-70)
References & Index

●本書に登場する主な人物●
L・ロッシュ、H・パークス夫妻、M・フォン・ブラント、J・ブリュネ、イタリア王妃マルゲリータ、F・デ・レセップス、ホッグ兄弟、クレッサー夫妻、明治天皇、徳川慶喜、瀧善三郎、寺島宗則、榎本武揚など

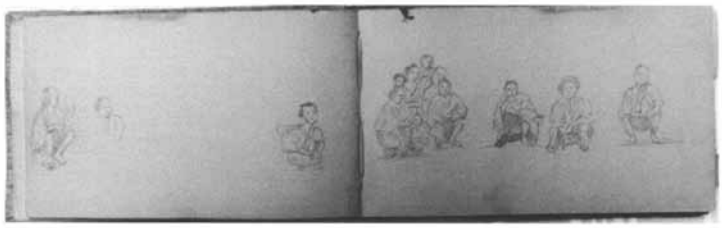
11- page 20 / page 21 (Sketch 13)



F: Le croquis 13 représente une traversée aventureuse de la rivière Tone, telle qu'elle est décrite dans le journal. En bas à droite de la page 21, il y a une petite inscription en italien: "Tonengawa 13 giu." (Tonegawa, 13 juin).

E: Sketch 13 depicts an adventurous crossing of the Tone river, as it is described in the journal. On the lower right side of page 21 there is a small inscription in Italian: "Tonengawa 13 giu." (Tonegawa, June 13th).

12- page 22 / page 23 (Sketches 14 & 15)



F: Les croquis 14 et 15 illustrent quelques figures japonaises: des femmes portant des enfants, un groupe de curieux ou une famille, des hommes et des femmes assis, etc...

E: Sketches 14 and 15 depict some Japanese people: women carrying children, a group of curious people or a family, men and women sitting, and so on.

編者からの言葉

ベルテッリ ジュリオ アントニオ
（大阪大学言語文化研究科准教授）

本書にて初めて全文翻刻、英訳とともに公刊される初代イタリア公使夫人マティルドの手稿一式は、西洋人女性の観点から明治維新前後の日本を注意深く観察する傍ら、未知なる日本の内地を旅する女性の記録として最も早いものである上に、多彩な魅力を秘める貴重な一次資料であると言える。

第一に、新鮮味がある。1880 年に刊行物として公開されたイサベラ・バードの『日本奥地紀行』と異なり、マティルドの史料は全て家族や友人に宛てた生の私文書であるため、刊行物に必要な文体の整理や修正が行われておらず、自己検閲の影響も受けていないため、150 年前に彼女の心を揺さぶったあらゆる感情はありのままで、現在を生きる我々にも新鮮に伝わる。

第二に、鋭い観察力に満ちた描写とユーモラスな逸話のバランスは絶妙である。マティルドは長期滞在者かつ外交官の妻であったため、彼女の日本とその文化に対する好奇心と理解力は特に深く、広範囲にわたる。彼女は日本の自然、美術、政治、歴史、日本人の文化、生活様式、美的感覚、外国人に対する接し方等に注目しながら、時折ユーモアと皮肉に満ちた逸話や刺のあるコメントで読者を驚愕させ、退屈させない。

総じて、繊細な心の持ち主であるマティルドと極度に刺激的な環境である日本との出会いは非常に興味深い成果をもたらしたと言える。そしてこの成果を公開しようという忘れられたマティルドの夢は 150 年の年月を経て、ついに実現した。

日本内地旅行中のスケッチブック（縮小掲載）。彩色された 1 点を除き 42 点の素描は鉛筆によるもので識別が難しいものが多くありますが、解説（二か国語）により、本文日誌と相互参照が可能になっています。

駐日英国公使パークス書簡翻刻シリーズ 第１巻

駐日英国公使パークス・英国外務次官ハモンド往復私信　幕末期編 【翻刻・注釈版】全１巻

Private Correspondence between Sir Harry Parkes and Edmund Hammond, 1865-1868

Series: Official and Unofficial British Attitudes to Japan, 1865-1883: Private Correspondence between Sir Harry Parkes and the Permanent Under-Secretary in the Foreign Office, Volume 1

編集・解説●ロバート・モートン（中央大学商学部教授）／序文●佐野真由子（京都大学教育学部教授）

2018 年 10 月刊行　B5 判・約 220 頁　本体価格：￥28,000-（＋税）　ISBN: 978-4-86166-206-5

初代英国駐日公使オールコックの後任として 1865 年に来日したサー・ハリー・パークスは、駐日英国公使・大使として歴代最長となる 18 年間その職を務め、幕末・維新期の日本と西洋の最前線で活躍した最重要人物の一人です。アーネスト・サトウ、アストン、ミトフォードといった優秀な書記官を部下にもったパークスは、幕府内外から広く情報を収集、中立を保ちながらも、薩長や討幕側と通じることにより新政府の樹立に影の指導力を発揮、英国からの強い影響のもとで明治日本が始動することになります。

本資料は、そのパークスが英国外務省高官らとで交わした非公式な書簡類を翻刻出版するシリーズの第 1 巻で、英国公文書館に所蔵されている、当時の外務事務次官エドムンド・ハモンドとで交わした幕末期の往復書簡全点を収録、さらに一部関連文書中の書簡も補足、編者による詳しい注釈を付しています。（英国公文書館の該当資料ファイルは「ハモンド文書」として知られますが、この文書については佐野真由子氏の推薦文をご参照ください。）

パークスは外務省宛の公式報告とは別に、信頼する高官ハモンドへ数多くの私信を送り、その時々の個人的な意見や気持ちを率直に伝えています。その内容は日本国内の政治状況や展望、政治家の人物評といった政治・外交問題から、日本での生活から受けるストレスといった私的なものも含まれ、ハモンドは誠実にそれらに返信しています。

公的な資料とは異なる外交史の側面や、後に日本アジア協会の会長も務めるパークスの日本や日本の近代化に対する様々な思いもここから読み解くことができる貴重な資料です。

駐日英国公使パークス書簡翻刻シリーズ 第２巻

駐日英国公使パークス・英国外務次官ハモンド往復私信　明治維新期編 【翻刻・注釈版】全１巻

Private Correspondence between Sir Harry Parkes and Edmund Hammond, 1869-1872

Series: Official and Unofficial British Attitudes to Japan, 1865-1883: Private Correspondence between Sir Harry Parkes and the Permanent Under-Secretary in the Foreign Office, Volume 2

編集・解説●ロバート・モートン（中央大学商学部教授）

2019 年 11 月刊行　B5 判・約 230 頁　本体価格：￥28,000-（＋税）　ISBN: 978-4-86166-207-2

19 世紀中期の大英帝国のアジア外交政策の実質的な決定者であった、外務省事務次官エドムンド･ハモンドと駐日公使パークスとの書簡集シリーズの第 2 巻は、明治維新期 1869 年～ 1872 年間の書簡を収録します。

大政奉還から明治政府の成立に影響力を及ぼしたパークスは、普仏戦争や駐日フランス公使として外交力を発揮していたロッシュの帰国、南北戦争からの立ち直りに時間を要していた米国などライバル国の影響力の低下もあり、明治日本と西洋間の外交の中心人物として新政府の国際社会での承認に大きな役割を発揮します。

本巻は英国公文書館に残されている私信（準公文書）約 90 点の翻刻と注釈に加え、パークスがハモンドへの報告に言及した資料 4 点を合わせて収録します。その中には、ミトフォードとシーボルトが英訳した明治政府の文書、F. O. アダムスによる日本の養蚕地訪問記、パークスが英国議会の委員会で行った外交実務に関する陳述書の翻刻など、ハモンドへの書簡の中で言及されている重要な資料が含まれます。

翻刻・注釈版 **アーネスト・サトウ日記**

[*Collected Works of Japanologists Series*]

幕末維新期編　全１巻

The Diaries of Sir Ernest Mason Satow, 1861-1869

【編集・解説】ロバート・モートン（中央大学教授）＆
イアン・ラックストン（九州工業大学教授）
【序文】デイヴィッド・ウォーレン（前駐日英国大使）

2013 年 11 月刊行　B5 判・約 400 頁　上製（クロス装）
本体価￥29,800-（＋税）　ISBN 978-4-902454-83-3

- ●英国公文書館所蔵のサトウ日記手稿を完全翻刻、編者による詳細な注釈を付す。
- ●特に注釈でのサトウの主著 *A Diplomat in Japan*（邦訳『一外交官の見た明治維新』(岩波文庫)）中の記述との比較は、今後の研究に有用。
- ●日記の原本に貼付されている図版や写真も一部掲載。
- ●来日直後に勃発した生麦事件、薩英戦争や下関戦争、そして西郷隆盛、桂小五郎など明治維新の要人との会談、明治天皇との謁見、日本各地への旅行などの詳細を記した貴重な生の記録。

駐清公使時代編　全２巻

The Diaries of Sir Ernest Satow, British Envoy in Peking (1900-06)

【編集・解説】イアン・ラックストン（九州工業大学教授）
【序文】ジェイムズ・ホアー（元在北朝鮮英国臨時代理大使、
ロンドン大学主席研究員）

2016 年 1 月刊行　B5 判・約 820 頁　上製（クロス装）
本体セット価：￥59,800-（＋税）　ISBN：978-4-902454-96-3

- ●駐日特命全権公使としての日本での任務ののち 1900 年から 1906 年まで駐清公使として北京に滞在した期間の日記。
- ●着任早々に全権大使として義和団の乱鎮圧後に北京議定書の調印に活躍、その後日英同盟の発効、対立から戦争へ至る日露と戦争の終結を見届け外交官を退官するまでの時代の日記。
- ●外交官として長く中国、朝鮮に滞在し、研究者としても多くの功績のあるスペシャリスト、James Hoare による序文入り。

明治前期編　全１巻

The Diaries of Sir Ernest Mason Satow, 1870-83

【編集・解説】イアン・ラックストン（九州工業大学教授）
【序文】ヒュー・コータッツィ（元駐日英国大使）

2015 年 11 月刊行　B5 判・約 525 頁　上製（クロス装）
本体価：￥34,800-（＋税）　ISBN：978-4-902454-95-6

- ●賜暇にて 1869 年に帰国したサトウが再来日する 1870 年から、総領事代理としてタイに赴任する 1883 年までの日記。
- ●駐日英国代理公使アダムズを支え、西郷隆盛、木戸孝允、岩倉具視ら明治新政府の要人と面会し、不平等条約問題や日清修好条規など多くの外交交渉の場に立ち会い、キリスト教解禁や西南戦争など激動の明治前期を見つめた約 13 年の記録。
- ●この時期のサトウは、長男・栄太郎、次男・久吉（後の武田久吉）が生まれ日本での私生活も安定、日本各地を旅し『中部・北部日本旅行案内』（ホーズとの共著）を著すほか、日本研究者としてもジャパン・ウィークリー・メール紙や日本アジア協会誌などに多くの論文を発表、『英和口語辞典』（石橋政方との共著）や『馬場文英著：開国史談一名元治夢物語』『椒山野史著：近世史略（翻訳）』の英訳出版を行うなど大きな功績を残した。
- ●明治史研究者だけでなく、ジャパノロジー（海外の日本研究）の資料としても貴重。

日露終戦、第２回ハーグ平和会議から第一次世界大戦へ　全１巻

The Diaries of Sir Ernest Mason Satow, 1906-1911

【編集・解説】イアン・ラックストン（九州工業大学教授）
【序文】イアン・ニッシュ（ロンドン大学名誉教授）

2015 年 9 月刊行　B5 判・約 525 頁（写真入り）上製（クロス装）
本体価：￥34,800-（＋税）　ISBN：978-4-902454-94-9

- ●外交官を退官し英国へ帰国した後の 1906 年～ 1911 年の日記を収録。
- ●駐清公使として外交官を引退後も枢密院顧問官（1906 年）や第 2 回ハーグ平和会議（万国平和会議）に英国代表次席公使（1907 年）に選ばれ、国際法や国際問題の専門家として活躍。本書はサトウ研究者にとっても、未だ本格的な研究に至っていないこの時期に焦点を当て、英国公文書館所蔵の手稿を完全翻刻復刻し、編者による詳細な註釈を付す。
- ●日露終戦後の日英や国際関係にどのような視線と向けていたのか、第 2 回ハーグ平和会議や著名な「ハーグ密使事件」にはいかに関わったのか、等々、長く極東アジアで国際政治の表舞台にあった外交官が第一次大戦の足音が近づくイギリスで残した生の記録の初の公刊。

西洋人女性の明治日本記
英文書誌事典　全１巻

Meiji Japan as Western Women Saw It
A Bibliographic Companion

Isabella Bird

編・著　Ronald D. Klein / ロナルド・クライン (元広島女学院大学教授)

2016 年 10 月刊行　B5 判・クロス装　約 345 頁（カラー図版・白黒写真入り）
本体価格：￥34,800（＋税）| ISBN: 978-4-902454-93-2　[Series: *Victorian Lady Travellers in Asia*]

●明治日本を著した西洋人女性約 200 名の詳しい人物情報と主著 600 点の解題、さらに雑誌記事や二次文献も含めた 1,200 件近い書誌情報をまとめた初の本格的英文書誌。

●著者を①旅行者、②キリスト教宣教師、③日本滞在者、④小説家に分類し、各項目にはその分野での西洋と日本との接触・関係史を詳説する序文が書き下ろされ、さらに原書カヴァーや挿絵のカラー図版や著者の肖像写真など視覚資料も掲載。

CONTENTS

Book Covers and Illustrations
General Introduction
Chapter I: Tourists and Travelers
[Travel Writers 40 / Annotations 45 / Bibliography 109]
Portraits of Women Travelers
Introduction
1.Victorian Women Travelers
2.Women Tourists and Travelers to Japan
3.Guide Books for Tourists
4.Varieties of Women Tourists and Travelers to Japan
5.Conclusion
Key Works by Women Tourists and Travelers
Part 1: Early Impressions—1860s and 1870s
Part 2: The Second Wave—1880s
Part 3: The Latecomers—1890s
Part 4: The Last Wave — 1900 to the End of the Meiji Era
Bibliography
Part 1: Works by Women Tourists and Travelers
Part 2: Secondary Sources
Part 3: Secondary Sources on Specific Authors

Chapter II: Missionaries
[Missionaries Writers 59 / Annotations 155 Bibliography 574]
Portraits of Women Missionaries
Introduction
1. Women's Work for Women Worldwide
2.The Protestant Church
3.The Roman Catholic Church
4.The Greek Orthodox Church
5.The Church Missionary Society
6.Other Christian Institutions

Mrs. Fraser

7.Women's Education
8.Social Services
9.Conclusion
Key Works by or about Meiji Women Missionaries
Part 1: Works by Missionaries
Part 2: Secondary Sources
Appendix 1: Early Women's Missionary Societies
Appendix 2: List of Annual Letters from the Field by CMS Missionaries
Appendix 3: Leading Missionaries in Women's Education
Appendix 4: Key Japanese Women Influenced by Missionaries
Appendix 5: Girls' Schools Founded 1870-1912

Chapter III: Sojourners
[Sojourners Writers 36 / Annotations 133 / Bibliography 159]
Portraits of Women Sojouners
Introduction
Key Works by Sojourners
Bibliography
Part 1: Works by Sojourners
Part 2: Secondary Sources

Chapter IV: Writers
[Writers (Authors) 74 / Annotations 286 / Bibliography 330]
Portraits of Women Writers
Introduction
Key Works by Writers
Bibliography
Part 1: Works by Writers
Part 2: Secondary Sources

Author Index

●分売書籍ご案内●　全点上製本、価格はすべて本体価格。在庫僅少品。

◆『西洋の語った日本』Japan in English シリーズより◆

マクファーレン『日本の地理および歴史』(JIE Vol. 1)　c378pp　ISBN 4-931444-85-7　￥23,000-
Charles MacFarlane, ***Japan****: An Account, Geographical and Historical, from the Earliest Period at Which the Islands Composing this Empire Were Known to Europeans, down to the Present Time, and the Expedition Fitted Out in the United States*, 1st edition, New York: Putnam, 1852.

テイラー『インド、中国および日本への訪問記』(JIE Vol. 2)　c.310pp　ISBN 4-931444-86-5　￥21,000-
Bayard Taylor, ***A Visit to India, China, and Japan***, First published 1855; this edition newly revised and edited by George Frederick Pardon, London: Blackwood, [1859/61?].

［ペリー］『開国した日本』(JIE Vol. 3)　c.310pp　ISBN 4-931444-87-3　￥21,000-
Anon., ***Japan Opened****: Compiled Chiefly from the Narrative of the American Expedition to Japan in the Years 1852-3-4*, First published 1858; this edition 2nd ed., London: Religious Tract Society, 1861.

コーンウォリス『日本への二度の旅』(JIE Vol. 4&5)　c.648pp　ISBN4-931444-88-1　￥40,000-
Kinahan Cornwallis, ***Two Journeys to Japan, 1856-7***, 1st edition, 2 vols, London: Newby, 1859.

オスボーン『日本近海巡航記』(JIE Vol. 6)　c.216pp　ISBN 4-931444-89-X　￥19,000-
(Captain) Sherard Osborn, ***A Cruise in Japanese Waters***,1st edition, Edinburgh & London: Blackwood, 1859.

スタインメッツ『日本とその人々』(JIE Vol. 7)　c.462pp　ISBN 4-931444-90-3　￥25,000-
Andrew Steinmetz, ***Japan and Her People***, First published 1859; this edition 2nd ed., London: Routledge, Warne, 1859.

モージュ『グロ全権公使の中国・日本遠征回想』（英訳）(JIE Vol. 8)　c.384pp　ISBN 4-931444-92-X　￥23,000-
Marquis de Moges, ***Recollections of Baron Gros's Embassy to China and Japan in 1857-58***, First published 1860; this edition 2nd ed., London: Griffin, Bohn, 1861.

オズボーン『日本の断章』(JIE Vol. 10)　c.164pp　ISBN 4-931444-94-6　￥19,000-
(Captain) Sherard Osborn, ***Japanese Fragments***, with Facsimiles of Illustrations by Artists of Yedo, 1st edition, London: Bradbury and Evans, 1861.

スミス『日本における十週間』(JIE Vol. 11)　ISBN 4-931444-95-4　c.492pp　￥25,000-
(Bishop) George Smith, ***Ten Weeks in Japan***, 1st edition, London: Longman, Green, 1861.

ティリー『日本、黒竜江地区、太平洋航海記』(JIE Vol. 12)　c.434pp　ISBN 4-931444-96-2　￥23,000-
Henry Arthur Tilley, ***Japan, the Amoor, and the Pacific****; with Notices of Other Places Comprised in a Voyage of Circumnavigation in the Imperial Russian Corvette "Rynda," in 1858-1860*, 1st edition, London: Smith, Elder, 1861.

フォンブランク『日本と中国北部での 2 週間』(JIE Vol. 13)　c.304pp　ISBN 4-931444-97-0　￥21,000-
Edward Barrington de Fonblanque, ***Niphon and Pe-che-li; or, Two Years in Japan and Northern China***, First published 1862; this edition 2nd ed., London: Saunders, Otley, 1863.

ジェフソン＆エルマースト『日本での生活』(JIE Vol. 14)　c.488pp　ISBN 4-931444-98-9　￥25,000-
Richard Mounteney Jephson & Edward Pennell Elmhirst, ***Our Life in Japan***, with Illustrations from Photographs by Lord Walter Kerr, Signor Beato, and Native Japanese Drawings, 1st edition, London: Chapman and Hall, 1869.

ポンプリー『北米横断からアジアへ― 5 年間の世界周遊』(JIE Vol. 15)　c.500pp　ISBN 4-901481-12-6　￥24,000-
Raphael Pumpelly, ***Across America and Asia****: Notes of a Five Years Journey around the World and of Residence in Arizona, Japan and China*,1st edition, New York: Leypoldt and Holt, 1870.

イーデン『日本』(JIE Vol. 16)　c.378pp　ISBN 4-901481-13-4　￥22,000-
Charles H. Eden, ***Japan: Historical and Descriptive***, 1st edition (revised and enlarged from 'Les Voyages Celebres'), London: Ward, 1877.

カロザース『日出る王国；日本での生活と光景, そして女性と仕事』(JIE Vol. 17)　c.442pp　ISBN 4-901481-14-2　￥22,000-
Julia D. Carrothers, ***The Sunrise Kingdom, or Life and Scenes in Japan and Woman's Work for Woman There***, 1st edition, Philadelphia: Presbyterian Board of Publication, 1879.

ディクソン『朝日の国日本』(JIE Vol. 18 & 19)　c.720pp　ISBN 4-901481-16-9　￥39,000-
William Gray Dixon, ***The Land of the Morning***: *An Account of Japan and Its People, Based on a Four Years' Residence in That Country, Including Travels into the Remotest Parts of the Interior*, 1st edition, Edinburgh: Gemmell, 1882.

フォールズ『9 年間の日本滞在記』(JIE Vol. 20)　c.310pp　ISBN 4-901481-17-7　￥19,000-
Henry Faulds, ***Nine Years in Nipon, Sketches of Japanese Life and Manners***,1st edition, London: Gardner, 1885.

マクレイ『日本での仕事と生活の思い出』(JIE Vol. 21)　c.450pp　ISBN 4-901481-18-5　￥22,000-
Arthur Collins Maclay, ***A Budget of Letters from Japan***: *Reminiscences of Work and Travel in Japan*, 1st edition, New York: Armstrong, 1886.

バークリー編『西洋人の日本の印象』(JIE Vol. 22)　c.272pp　ISBN 4-901481-20-7　￥19,000-
(Commander) Hastings Berkeley, ed., ***Japanese Letters: Eastern Impressions of Western Men and Letters, as Contained in the Correspondence of Tokiwara and Yashiri***, 1st edition, London: Murray, 1891.

マードック『オーストラリアと日本』(JIE Vol. 23)　c.316pp　ISBN 4-901481-21-5　￥19,000-
"A.M." (James Murdoch), ***From Australia and Japan***, 1st edition, London: Scott, 1892.

タルボット『開国前の日本と台湾』(JIE Vol. 41)　c.185pp ISBN 4-86166-040-8　￥19,000-
Watts, Talbot, ***Japan and the Japanese***: *from the most authentic and reliable sources; with illustrations of their manners, costumes, religious ceremonies, &c, the Japanese empire and the people, their costumes, customs and traditions, religous celebrations, folklore &c.*, New York: J.P. Neagle, 1852.

スポルディング『日本遠征記』(JIE Vol. 42)　c.387pp　ISBN 4-86166-041-6　￥24,000-
Spalding, J. Willett, The Japan expedition, Japan and around the world : an account of three visits to the Japanese Empire : with sketches of Madeira, St. Helena, Cape of Good Hope, Mauritius, Ceylon, Singapore, China, and Loo-Choo,New York: Redfield, 1855.

ウィリー『最後の航海 — マレー、琉球、日本、東アジア航海記』(JIE Vol. 43) c.537pp　ISBN 4-86166-042-4 ￥28,000-
Habersham, Alexander Wylly, ***My last cruise, or, Where we went and what we saw :*** *being an account of visits to the Malay and Loo-Choo Islands, the coasts of China, Formosa, Japan, Kamtschatka, Siberia, and the mouth of the Amoor River*, Philadelphia: J. B. Lippincott & co. , 1857.

トロンソン『バラクータ号航海記』(JIE Vol. 44)　ISBN 4-86166-043-2　c.435pp　￥28,000-
Tronson, John M., ***Personal narrative of a voyage to Japan, Kamtschatka, Siberia, Tartary, and various parts of coast of China; in H. M. S. Barracouta***. [1854-1856], London: Smith, Elder & co., 1859.

ジョンストン『ポーハタン号中国・日本航海記』(JIE Vol. 25)　c.460pp　ISBN 4-901481-51-7　￥25,000-
James D. Johnston, ***China and Japan***: *Being a Narrative of the Cruise of the U.S. Steam-Frigate Powhatan, in the Years 1857, '58, '59, and '60; Including an Account of the Japanese Embassy to the United States* (1860).

ケミッシュ『日本帝国史』(JIE Vol.26)　c.310pp　ISBN:4-901481-52-5　￥20,000-
S. B. Kemish, The Japanese Empire: Its Physical, Political, and Social Condition and History ; with Details of the Late American and British Expeditions (1860)

ダギラー夫人『マニラ・日本旅行記』(JIE Vol. 27)　c.314pp　ISBN 4-901481-53-3　￥20,000-
Anna D'Almeida [D'Aguillar], ***A Lady's Visit to Manilla and Japan*** (1863)

フォーチュン『江戸と北京 : 英国園芸学者の極東紀行』(JIE Vol. 28)　c.428pp　ISBN 4-901481-54-1　￥23,000-
Robert Fortune, ***Yedo and Peking***: *A Narrative of A Journey to the Capitals of Japan and China, with Notices of the Natural Productions, Agriculture, Horticulture, and Trade of Those Countries, and Other Things Met With by the Way* (1863)

アダムス『博物学者の旅した日本・満州』(JIE Vol. 29)　ISBN 4-86166-001-7 c344pp　￥24,000-
Arthur Adams, ***Travels of a Naturalist in Japan and Manchuria***, 1870 ed.

F. O. アダムス『日本幕末維新史』全 2 巻 (JIE Vol.30 & 31)　ISBN 4-86166-002-5　￥39,000-
Francis Ottiwell Adams, ***The History of Japan, from the earliest period to the present time, Vol. 1: 1853 to 1864, with a sketch of the earlier periods, Vol. 2: 1865 to 1871***, completing the work 1874-5 ed.

バックス『ドワーフ号航海記』(JIE Vol. 32)　c.300pp　ISBN 4-86166-003-3　￥24,000-
Bonham Ward Bax, ***The Eastern Seas***, *Being a Narrative of the Voyage of HMS "Dwarf" in China, Japan, and Formosa* 1875 ed.

セント＝ジョン『日本の沿岸の記録とスケッチ』(JIE Vol. 33)　c.416pp　ISBN 4-86166-005-X　￥24,000-
Henry Craven Saint John, ***Notes and Sketches from the Wild Coasts of Nipon**, with Chapters on Cruising after Pirates in Chinese Waters*, 1880 ed.

ホルサム『日本での８年間』(JIE Vol. 34)　c.370pp　ISBN 4-86166-006-8　￥24,000-
Edmund Gerald Holtham, ***Eight Years in Japan, 1873-1881**: Work, Travel, and Recreation*, 1883 ed.

チャールズ･ランマン『日本の指導者伝および日本帝国小史』(JIE Vol. 35)　c.422pp　ISBN 4-86166-007-6　￥24,000-
Charles Lanman, ***The Leading Men of Japan**, with an Historical Summary of the Empire*, 1883 ed.

ディクソン『日本拾遺集』(JIE Vol. 36)　c.410pp　ISBN 4-86166-008-4　￥24,000-
Walter G. Dickson, ***Gleanings from Japan***, 1889 ed.

メアリー・ビカステス『ビカステ主教の妹の日本紀行文』(JIE Vol. 37)　c.370pp　ISBN 4-86166-010-6　￥24,000-
Mary Jane Bickersteth, ***Japan as We Saw It***, 1893 ed.

パーマー著『タイムズ特派員の日本からの手紙』(JIE Vol. 38) c328pp　ISBN 4-86166-011-4　￥24,000-
Henry Spencer Palmer, ***Letters from the Land of the Rising Sun***, *Being a Selection from Correspondence Contributed to "The Times" between the Years 1886 and 1892*, 1894 ed.

◆アジア学レファレンス名著復刻叢書 Reference Library of Asian Studies より◆

モール著『東洋研究の 27 年』全 2 巻（フランス語：底本 1879-80 年刊）ISBN 4-901481-45-2　￥48,000-
Jules Mohl, ***Vingt-sept ans d'histoire des etudes orientales:Rapports faits a la Societe Asiatique de Paris de 1840 a 1867***.

デュガ著『東洋学者列伝』全 2 巻（フランス語：底本 :1868-70 年刊）　ISBN 4-901481-46-0　￥36,000-
Gustave Dugat, ***Histoire des orientalistes de l'Europe du XIIe au XIXe siecle, precedee d'une esquisse historique des etudes orientales***.

デニス著　『英領マラヤ事典』全 1 巻　ISBN 4-901481-01-0　￥28,800-
N. B. Dennys, ***A Descriptive Dictionary of British Malaya***, New introduction by Kingsley Bolton, University of Hong Kong.

ブレットシュナイダー著『中国におけるヨーロッパ人の植物発見史』全 2 巻　ISBN 4-901481-00-2　￥49,800-
History of European Botanical Discoveries in China, New Introduction by Kerrie MacPherson, University of Hong Kong.

◆国際東洋学者会議 会議録 International Congress of Orientalists 1873-1881 より◆

ロンドン大会 1874 年　全 1 巻　512pp　ISBN 4-931444-15-6　￥28,000-
Transactions of the Second Session of the International Congress of Orientalists, Held in London in September 1874
Edited by Robert K. Douglas, London, 1876.

サンクトペテルブルク大会 1876 年　全 2 巻　1432pp　ISBN 4-931444-16-4 ￥77,000-
Travaux de la troisieme session du Congres international des orientalistes, St.-Petersbourg 1876
Edited by W. W. Grigorieff & Victor de Rosen, St. Petersburg & Leyden, 1879.

フィレツェ大会 1878 年　全 2 巻　870pp　ISBN 4-931444-17-2　￥47,000-
Atti del IV congresso internazionale degli orientalisti tenuto in Firenze nel settembre 1878, Florence, 1880-81.

ベルリン大会 1881 年　全 3 巻　1258pp　ISBN 4-931444-18-0　￥72,000-
Verhandlungen des fnften internationalen Orientalisten Congresses gahalten zu Berlin im September 1881, Berlin, 1881-2.

英文日本年鑑
The Japan Year Book:

Complete Cyclopaedia of General Information and Statistics on Japan and Japanese Territories, 1905-1911

Edited by **Takenobu Yoshitarō**（武信由太郎）/
Published by The Japan Year Book Office
New Introduction by Peter O'Connor（英文序文：ピーター・オコーノ 武蔵野大学教授）
（『戦前期英文日本年鑑コレクション』シリーズ /
Pre-war Japan: A Collection of Yearbooks in English Series）

第 1 回配本：1905 年～ 1911 年　全 6 巻

2013 年 4 月刊行　A5 判（原本を約 10％拡大）・全約 3,900 頁　本体セット価￥148,000-（＋税）　ISBN: 978-4-86166-160-0

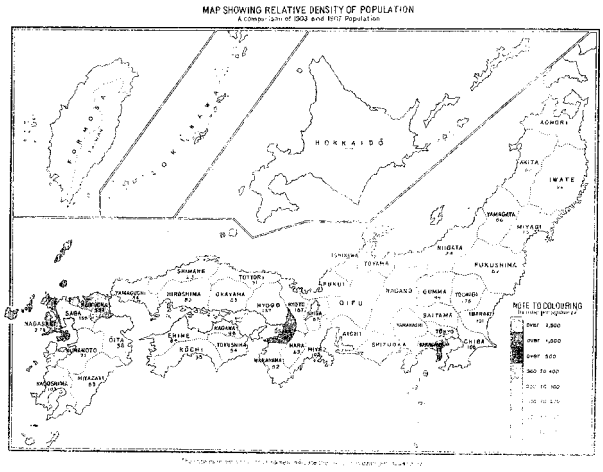
第 2 回配本：1912 年～ 1917 年　全 6 巻

2015 年 1 月刊行　A5 判（原本を約 10％拡大）・全約 4,500 頁　本体セット価￥168,000-（＋税）　ISBN: 978-4-86166-161-7

第 3 回配本：1918 年～ 1923 年　全 5 巻

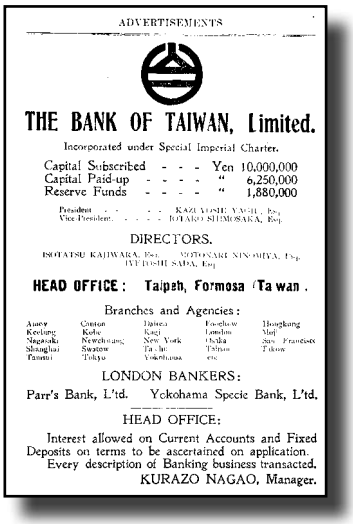
2016 年 11 月刊行　A5 判（原本を約 10％拡大）・全約 4,800 頁　本体セット価￥168,000-（＋税）　ISBN: 978-4-86166-162-4

- 『ジャパン - タイムズ』を設立し副主筆を務めた武信由太郎（1863-1930）が創刊した、日本初の本格的英文年鑑。
- 武信は官立英語学校卒業後、札幌農学校、横浜英字新聞社などを経て、福澤諭吉ら政財界の後押しで創設された日本人による初の日刊英字新聞『ジャパン・タイムズ』に参画、日本情報の海外への発信に力を注いだが、同時に早稲田大学教授として英語教育の分野でも名を残し、『英語青年』誌の創刊や『武信ポケット新和英辞典』、『武信和英辞典』（研究社・新和英大辞典の前身）など本格的な辞書を編集したことでも知られる。
- 本年鑑は 1905 年に創刊、当初ジャパン・タイムズ社が印刷を請け負っていたことからも、同紙と編集、製作面などで連携していたと思われる。
- その後出版社が変わるものの、戦中から戦後まで継続された唯一の英文日本年鑑で、政治、経済、社会、文化などあらゆる分野の動向を各巻 500 ～ 800 頁強にまとめ、詳細な統計資料とともに出版した。台湾、朝鮮、樺太や満州に関する情報も独立した章に掲載された。
- ロンドン、ニューヨークに販売代理店を置き、海外でも広く販売、一時期英国タイムズ紙主宰のブッククラブにも採用され会員に頒布されたこともある。
- ***Japan Times*** とならび 20 世紀前半の日本人による西洋への情報発信に重要な役割を果たし、当時の海外報道機関なども日本情報源として高く信用、利用した。



●主な執筆者●

池田謙三（第百銀行頭取、東京貯蔵銀行頭取を務め、日本興業銀行、台湾銀行の創立に参画。）
岡村司（明治・大正期の法学者・弁護士。京都帝国大学教授。）
木下淑夫（鉄道官僚。観光産業の重要性を説き、ジャパン･ツーリスト･ビューロー（日本交通公社）の生みの親となった。）
呉文聡（統計学者。内務省、農商務省で統計の開発・整備に当たる。）
桑田熊蔵（社会政策学会を創設した経済学者。中央大教授、内務省社会局参与などをつとめた。）
煙山専太郎（西洋史学者、政治学者、早稲田大学教授。国際・外交問題専門誌『外交時報』の数多くの論文を寄稿し執筆面を支えた。）
小崎弘道（牧師。熊本洋学校で学んだ後、同志社に転入、新島襄と出会い伝道をともに行う。霊南坂教会を創設し、同志社第２代社長（総長）、日本組合基督教会会長、日本基督教連盟会長などを務めた。）
阪田貞一（工学者。欧米で機械工学を研究したのち帰国、東京高等工業学校（東京工業大学）校長をつとめた。）
阪谷芳郎（大蔵官僚、政治家。大蔵大臣、東京市長、専修大学学長を歴任。）
佐藤昌介（札幌農学校第１期生としてクラークに学び渡米。新渡戸稲造らと初の農学博士の称号を授与。札幌農学校校長、東北帝国大学総長を歴任後。北海道帝国大学の初代総長。）
下田次郎（女子教育家。女子高等師範学校（お茶の水女子大学）教授。大日本女子教育会を設立し女子の教育の振興に大きな功績を残した。）
頭本元貞（伊藤博文や渋沢栄一に重用され国際的に活躍したジャーナリスト。衆議院議員。）
添田壽一（大蔵官僚、銀行家、官庁エコノミスト。日本法律学校（日本大学）の設立に加わった。）
高田早苗（政治家、教育者、法学博士。文部大臣、早稲田大学総長などを歴任。）
武信由太郎（『ジャパン・タイムズ』創設に参画した、明治・大正期を代表する英語学者。早稲田大学教授。日本初の本格的な和英辞典『武信和英大辞典』を編纂した。）
留岡幸助（感化院教育、社会福祉の先駆者。）
中松盛雄（特許局長、日本基督教会理事長、化学工業協会会長などを歴任した官僚、弁護士、弁理士。）二階堂保則（統計専門家。内閣統計局で「人口動態調査」や国勢調査局で第１回国勢調査の実施に当たった。人口統計、統計学関する論著多数。）
本多静六（林学博士、造園家。東京農林学校（東京大学農学部）教授。日本の「公園の父」といわれ、日比谷公園はじめ明治神宮、北海道の大沼公園、福岡の大濠公園など多数の公演の設計に携わった。関東大震災からの復興の原案作成したことでも知られる。）
和田維四郎（鉱物学者、書誌学者。大学東京大学創設にあたり、ナウマンの助教として理学部地質学科に加わる。農商務省地質局長、鉱山局長、地質調査所所長、東京大学教授を歴任。）


ADVERTISEMENTS

THE BANK OF TAIWAN, Limited.

Incorporated under Special Imperial Charter.

Capital Subscribed - - - Yen 10,000,000
Capital Paid-up - - - - " 6,250,000
Reserve Funds - - - - " 1,880,000

President - - - - KAZUYOSHI YAMAI, Esq.
Vice President - - - - - BUNKICHI SHIMOSAKA, Esq.

DIRECTORS.

ISOTATSU KAJIWARA, Esq. MOTOSAKE NINOMIYA, Esq.
IYEYOSHI SADA, Esq.

HEAD OFFICE: Taipeh, Formosa (Taiwan).

Branches and Agencies:

Amoy, Canton, Dairen, Foochow, Hongkong, Keelung, Kobe, Kagi, London, Moji, Nagasaki, Newchwang, New York, Osaka, San Francisco, Shanghai, Swatow, Taichu, Taihoku, Tokyo, Tokohama, etc.

LONDON BANKERS:

Parr's Bank, L'td. Yokohama Specie Bank, L'td.

HEAD OFFICE:

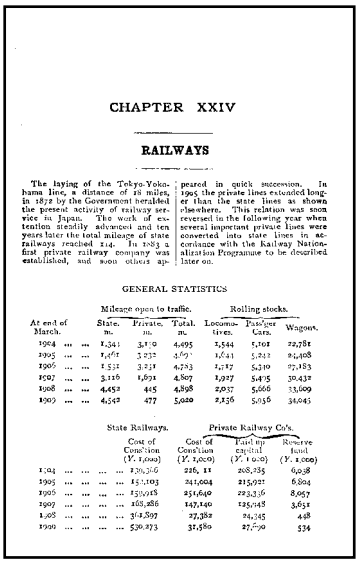
Interest allowed on Current Accounts and Fixed Deposits on terms to be ascertained on application.
Every description of Banking business transacted.
KURAZO NAGAO, Manager.

＊ PRESS COMMENT ON THE 1910 EDITION ＊

DAILY TELEGRAPH (May 26th, 1910) – The work constitutes a most comprehensive cyclopaedia of general information and statistics concerning Japan.

FINANCIAL TIMES (May 30th , 1910) – This very useful manual should be of greater service than ever this year, on the one hand, of the steady expansion of business between Great Britain and Japan and, on the other hand, of the interest which is now being directed to Anglo-Japanese matters by the exhibition at Shepherd's-Bush. … The book should prove extremely useful to those who desire information with regard to anything "Japanese".

THE TIMES (July 19th, 1910) – Those who are interested in the Japanese Empire will find this little book of great value. It is to a larger extent what it claims to be – namely, "a complete cyclopaedia of general information and statistics on Japan". The editor, Professor Y. Takenobu, of Waseda University, formerly editor of the Japan Times, is a well-known economist and writer, He has apparently spared no pains to include in the fifth annual volume of his publication the most recent data, and in many cases the figures have been brought down to 1909. Not the least important feature of the Japan Year Book is Chapter V., which comprises a "Who's Who in Japan". In the compilation of the Japanese number of The Times frequent reference has been made to Mr. Takenobu's work, and in nearly all instances the information sought has been found.


CHAPTER XXIV

RAILWAYS

The laying of the Tokyo-Yokohama line, a distance of 18 miles, in 1872 by the Government heralded the present activity of railway service in Japan. The work of extension steadily advanced and ten years later the total mileage of state railways reached 714. In 1883 a first private railway company was established, and soon others appeared in quick succession. In 1905 the private lines extended longer than the state lines as shown elsewhere. This relation was soon reversed in the following year when several important private lines were converted into state lines in accordance with the Railway Nationalization Programme to be described later on.

GENERAL STATISTICS

At end of March.	Mileage open to traffic. State. m.	Private. m.	Total. m.	Rolling stocks. Locomotives.	Passenger Cars.	Wagons.
1904	1,341	3,170	4,695	1,544	5,101	22,781
1905	1,461	3,232	4,693	1,641	5,212	24,468
1906	1,531	3,231	4,793	1,147	5,419	27,183
1907	3,116	1,691	4,807	1,927	5,475	30,432
1908	4,452	415	4,898	2,037	5,666	33,609
1909	4,542	477	5,020	2,156	5,936	34,045

	State Railways. Cost of Construction (Y. 1,000)	Private Railway Co's. Cost of Construction (Y. 1,000)	Paid-up capital (Y. 1,000)	Reserve fund (Y. 1,000)
1904	120,316	226, 11	208,235	6,038
1905	151,103	241,604	215,921	6,804
1906	153,018	251,646	223,356	8,057
1907	165,286	147,140	125,145	3,651
1908	312,597	27,382	24,345	448
1909	530,273	31,580	27,650	534

戦前期の日本を視覚的に海外に発信した英文写真年鑑

『ジャパン・イラストレイテッド』全 10 巻

Japan Illustrated, 1934-38

完結

A Year Book of Japan with Official Information and Statistical Data on All Phases of the Empire combined with Special Articles and a Complete Guide Book

Edited by Nippon Dempo News Agency（日本電報通信社）

【復刻版 監修・解説】土屋礼子（早稲田大学政治経済学術院教授）※ 解説書は第 1 回配本に付録されます。

第 2 回配本（完結）Japan Illustrated, Part 2: 1937-1938 in 4 volumes

[Pre-war Japan: A Collection of Yearbooks in English, Series 5]

2018 年 6 月刊行　B5 判・全約 1,300 頁　本体セット価：￥128,000-（＋税）※ 分売可　ISBN: 978-4-86166-166-2

Volume 7-8 : Japan Illustrated 1937（総 676 頁、カラー／白黒図版多数）

分売価格：￥68,000-（本体）ISBN: 978-4-86166-201-0

Volume 9-10 : Japan Illustrated 1938（総 626 頁、カラー／白黒図版多数）

分売価格：￥68,000-（本体）ISBN: 978-4-86166-202-7

●多数の白黒写真とカラー図版により日本を海外に広く紹介した、豪華英文写真年鑑 *Japan Illustrated* 復刻版が完結。

●戦前期の日本の国家の宣伝の一端を担った出版物で、時事情報やデータをまとめた一般の「年鑑」の内容に加え、各年後半は General Guide for Foreign Travellers と題し、日本の各地を海外に紹介する日本ガイドとなっている。日本ほぼ全土の自然や名所旧跡を地域ごとに紹介、建築、美術工芸品は一部カラー図版も使い掲載し、教育、スポーツや芸術活動など文化的な国家イメージの PR にも多くのページを割き、また外国人外交官や海外からの来日した著名人なども写真入りで報じている。

●植民地台湾、朝鮮、南方諸島、樺太などに加え、満州に関しては独立したセクションが設けられ産業や人々の生活に関する貴重な写真も多数掲載。

●メディア史、広告史、写真史、観光史などの資料としてのみならず、近代日本史に関するあらゆる側面のデータおよび視覚的資料として利用が可能。

■ Japan Illustrated　第 1 回配本
Part 1: 1934-1936　全 6 巻＋別冊解説（既刊・在庫）■

[Pre-war Japan: A Collection of Yearbooks in English, Series 4]

2017 年 11 月刊行　B5 判・全約 2,650 頁

本体セット価：**￥168,000-**（＋税）＊分売可　**ISBN: 978-4-86166-165-5**

Volume 1-2 : Japan Illustrated 1934（総 957 頁、カラー図版 14、白黒図版約多数）

2 巻セット分売価：￥68,000-（本体）ISBN: 978-4-86166-198-3

Volume 3-4 : Japan Illustrated 1935（総 886 頁、カラー図版 14、白黒図版多数）

2 巻セット分売：￥68,000-（本体）ISBN: 978-4-86166-199-0

Volume 5-6 : Japan Illustrated 1936（総 768 頁、カラー図版 7、白黒図版多数）

2 巻セット分売：￥68,000-（本体）ISBN: 978-4-86166-200-3

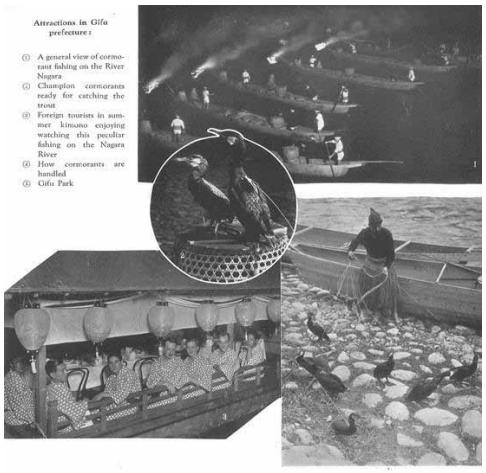
監修者より

土屋礼子

1934 年に日本電報通信社（のちの電通）から創刊された『Japan Illustrated』は、「英文電通年鑑」とも称され、明治末から同社によって刊行された『新聞総覧』や、戦後の『電通広告年鑑』のように長く続いた年鑑類に比べるとあまり知られていないが、この時代の英文年鑑としてひときわ分厚く豪華な特筆すべき出版物である。

1932 年の満州国成立以降、国策通信社・同盟通信創設のため通信部門をもぎ取られることになった電通は、一方で国策に沿うような海外向けの雑誌や書籍を出版しており、この年鑑もその一つである。その内容は、日本の国勢に関する概説と外国人観光客に向けての観光案内を二つの柱として構成されている。先行していた武信由太郎の『The Japan Year Book』に比べると、紳士録に相当する要人名簿がなく、データ類は少ないが、日本への旅に誘うような風景や人物の写真がカラー写真も含めて多く織り込まれているのが特徴である。

太平洋戦争時に制作された連合軍側の宣伝ビラに用いられた写真も散見され、欧米ではこの年鑑が一般的な参考文献として活用されたことが伺える。その意味でも、戦前・戦中・戦後と日本に対する欧米諸国のまなざしを日本側がどのように意識して宣伝していたのか、そして実際どのように編成されたのか、考察するためにも重要な文献だといえる。



Japan Illustrated 1937 CONTENTS

VOLUME 7

PART I: A Year Book of Japan
Chapter I: The Imperial Court of Japan
Chapter II : The Influence of Geography on Industry
Chapter III : The Present and Future of the Japanese Population
Chapter IV : Government
Chapter V: Principal Domestic Events
Chapter VI: The Army
Chapter: VII The Imperial Japanese Navy and Naval Limitation
Chapter VIII: Foreign Relations
Chapter IX: The Press
Chapter X: Communications
Chapter XI: Education
Chapter XII: Religion
Chapter XIII: Social Work
Chapter XIV: Patents
Chapter XV: Olympic Games (The 1940 Olympic Games to be Held in Tokyo)
Chapter XVI: Finance
Chapter XVII: Economic Affairs
Chapter XVIII: Aviation

Appendix:The Constitution / The Imperial House Law / Diplomatic Representatives in Tokyo / The German-Japanese Agreement Against the Comintern

VOLUME 8

PART II General Guide for Foreign Travellers
Chapter I: Kwanto and Tohoku
Chapter II: Chubu Region
Chapter III: Kinki Region
Chapter IV: Chugoku Region
Chapter V: Shikoku Region
Chapter VI: Kyushu Region
ChapterVII: Hokkaido
Chapter VIII: Overseas Possessions: Chosen / Taiwan / Karafuto / Kwantung Province / South Sea Islands
ILLUSTRATIONS IN COLOURS (The Flowers of the Field, by Taikwan Yokoyarna / In Search of Autumnal Beauty / A Multi-coloured Pot, by Ninsei Nonomura / Kirishima Azalea / Iris Garden / Flower and Birds, by a Master of the Kano School)
SUPPLEMENT ON MANCHOUKUO
Chapter I: Introduction (March of Progress / Government and Foreign Affairs / Area and Population / Judiciary / Local and Municipal Administration)
Chapter II: Finance
Chapter III: Currency and Banking
Chapter IV: Economy and Industry
Chapter V: Transportation and Communications

APPENDICES (Japan's Declaration on Abolition of Extrality / Exchange Control Law / Manchoukuo-German Trade Agreement / Japan-Manohoukuo Treaty on Extrality / Supplementary Agreement / Foreign Trade Statistics
INDEX TO ADVERTISERS

ジャパン・ウィークリー・メイル

The Japan Weekly Mail, 1870-1917 in 135 vols.

【総発売元　紀伊國屋書店】

横浜開港資料館の協力により 2005 年より刊行が開始されました、英字新聞 *The Japan Weekly Mail* の復刻版全 135 巻が完結いたしました。同資料館が収集した原本に、本復刻刊行中に発見された号も加え、わずかの未発見頁をのぞきほぼ全号が原寸サイズにて収録され、各巻の見出し語一覧が別冊にて付録されています。

明治 2 年に横浜で創刊後、1917 年に *Japan Times* 紙に吸収されるまで、日本の西洋列強入りを支援し、西洋各国との不平等条約の解消など政治、外交上の影響力を発揮したこの新聞には、外国商社や国内貿易会社を始めとした企業情報や輸出入統計、そしてハーン、サトウ、チェンバレンなど西洋人ジャパノロジストの日本研究やヨネ・ノグチのような西洋に向け日本を発信した日本人作家の英文寄稿も多数掲載され、まさに明治・大正期の日本の対外発信を担ったメディアといえます。

多様な側面からの日本研究が国内外で進む今日、近代日本の国際化の原点ともいえる本資料を是非広く研究・教育にご活用ください。

○明治期を代表する日本発の英字新聞を、横浜開港資料館所蔵のコレクションに加え海外から提供された号も含め、ほぼ全号を復刻。
○経済、貿易などの貴重なデータや居留地の情報に加え、政治・外交・社会の問題について西洋ジャーナリズムならではの視点で日本を海外に発信した。
○お雇い外国人やジャパノロジストの日本研究の場としても機能し、投稿欄での論争や日本アジア協会での討議など、当時の西洋人日本研究者・愛好家の生の声が紹介された。
○日本の近代化と西洋の関係史やメディア史研究には必携の資料。

推薦のことば

日本近代史再叙述のために

東京大学名誉教授・京都造形芸術大学名誉学長　芳賀　徹

「…その明治初年から大正半ばまで、約半世紀の日英間の政治・経済・文化の面での相互交渉を、週ごとに、ときには日ごとに、記録するのが、このたび復刻の『ジャパン・ウィークリー・メイル』である。この時期ほど日本社会が急激な変化を経験したことはかつてなかった。それに応じて西欧側の日本認識も、この新聞ではおおむね好意的だったとはいえ、刻々に変転した。
この復刻版によって、在日欧米人の日本像の変遷を克明にたどるのは、日本近代史再叙述のために、まことに意義深く、また楽しかろう。」

質量ともに他紙を圧倒

横浜市立大学名誉教授・前学長　加藤祐三

「…十九世紀中頃に来日した欧米人や中国人がどのように日本に受容されていったか、彼らが新生日本をどう見ていたか、それを世界史のなかで（とくに日中を対比しつつ）位置づけること、このあたりに私の関心がありました。そのための膨大な一次文献を探す過程で、横浜刊行の英字新聞に注目した次第です。いくつかの英字新聞が外国人により発刊されていましたが、今回復刻出版される *Japan Weekly Mail* は、政治・経済のみならず、日本の社会・文化に関する報道に高い比重を置く編集方針を取っており、その内容は質量ともに他紙を圧倒しています。日本の近代化や対外関係を社会史・政治史・文化史の各方面から分析する上でも、貴重な材料を提供してくれます。原本を系統的に蔵する図書館が限られている中で、各方面で本紙活用の試みがあると聞きます。今回の復刻により、この貴重な資料が広く共有・活用されることを願ってやみません。」

『ジャパン・ウィークリー・メイル』の復刻出版を心から歓迎

近代日本研究者　廣瀬靖子

「…関東大震災や第二次世界大戦の戦災で外字紙の多くは失われましたが、そうした中で本紙ジャパン・ウィークリー・メイルが、短命紙は別として最もよく残っているのは、ジャパン・タイムズの後身から出発し変動を経ながら代表的外字紙へ発展を遂げたこの新聞の声価と内実の然らしめる所と言えましょう。ただ、その本紙にしても、私の渉猟当時国内に全号揃いでの所蔵は見当りませんでしたし、更に言えば、大体外字紙はどこでも殆ど利用されず、死蔵に等しいというのが実情でした。近年、歴史研究や問題意識の多様化に伴い外字紙もどんどん利用されるようになり、悦ばしい限りです。」

明治維新期から近代化する日本の情報を
世界に発信しつづけた英字新聞
創刊号からの全巻復刻、ついに完結

◆シリーズ既刊◆ ～好評発売中～

第 1 回配本 : 1870 ～ 1874 全 10 巻 + 別冊

● ￥331,429-（＋税） ●2010 年 9 月増刷 ● 約 4,850 頁 ●ISBN: 978-4-86166-020-7
別冊：『ジャパン・ウィークリー・メイル』について」
斎藤多喜夫（元横浜開港資料館調査研究員）＋記事見出し索引

第 2 回配本 : 1875 ～ 1879 全 13 巻 + 別冊

● ￥331,429-（＋税） ●2010 年 10 月増刷 ● 約 7,060 頁 ●ISBN: 978-4-86166-021-4
別冊：「初期『ジャパン・ウィークリー・メイル』と明治政府」
浅岡邦雄（中京大学）＋記事見出し索引

第 3 回配本 : 1880 ～ 1884 全 12 巻 + 別冊

● ￥379,048-（＋税） ●2007 年 10 月刊行 ● 約 6,990 頁 ●ISBN: 978-4-86166-022-1
別冊 :「英字新聞の船舶情報欄」
伊藤久子（元横浜開港資料館調査研究員）＋記事見出し索引

第 4 回配本 : 1885 ～ 1889 全 10 巻 ＋ 別冊

● ￥379,048-（＋税） ●2008 年 9 月刊行 ● 約 6,300 頁 ●ISBN: 978-4-86166-023-8
別冊：「日本文学ことはじめー『ジャパン・ウィークリー・メイル』に於いて」
生野摂子（鶴見大学名誉教授）＋記事見出し索引

F. ブリンクリー〈*Japan Punch* より〉
1881 年にジャパン・メイル社社主となる。後にロンドン・タイムズの東京通信員も兼任 し、ジャパン・ウィークリー・メイルに黄金期をもたらす。

第 5 回配本 : 1890 ～ 1894 全 14 巻 + 別冊

● ￥379,048-（＋税） ●2010 年 9 月刊行 ● 約 7,200 頁 ●ISBN: 978-4-86166-024-5
別冊：「明治初期生糸取引における横浜外国商人の実相ー居留地貿易史料としての『ジャパン・ウィークリー・メイル』」
井川克彦（日本女子大学教授）＋記事見出し索引

第 6 回配本 : 1895 ～ 1899 全 13 巻 ＋ 別冊

● ￥379,048-（＋税） ●2010 年 9 月刊行 ● 約 7,700 頁 ●ISBN: 978-4-86166-025-2
別冊：「明治初期の『ジャパン・メール』と『横浜毎日新聞』」上田由美（横浜開港資料館調査研究員）＋記事見出し索引

第 7 回配本 : 1900 ～ 1903 全 12 巻＋別冊 在庫僅少

● ￥331,429-（＋税） ●2011 年 11 月刊行 ● 約 5,700 頁 ●ISBN: 978-4-86166-138-9 別冊：記事見出し索引

第 8 回配本 : 1904 ～ 1906 全 12 巻＋別冊

● ￥331,429-（＋税） ●2012 年 9 月刊行 ● 約 4,700 頁 ●ISBN: 978-4-86166-139-6 別冊：記事見出し索引

第 9 回配本 : 1907 ～ 1909 全 12 巻＋別冊

● ￥331,429-（＋税） ●2013 年 10 月刊行 ● 約 4,950 頁 ●ISBN: 978-4-86166-140-2 別冊：記事見出し索引

第 10 回配本 : 1910 ～ 1912 全 12 巻＋別冊

● ￥331,429-（＋税） ●2014 年 10 月刊行 ● 約 4,950 頁 ●ISBN: 978-4-86166-141-9 別冊：記事見出し索引

第 11 回配本 : 1913 - Oct. 1917 全 15 巻＋別冊

● ￥405,556-（+ 税） ●2015 年 10 月刊行 ● 約 6,500 頁 ●ISBN: 978-4-86166-142-6 別冊：記事見出し索引

西洋の論じた日中・太平洋戦争

同時代英語文献復刻シリーズ

第 1 回配本：太平洋戦争 戦前期編　全 6 巻

【編集・解説】ロジャー・バックリー（元国際基督教大学教授）

Wars and Rumours of War - Japan, the West and Asia Pacific, 1918-1945

Selected Contemporary Readings on Crises and Conflict, Series I: 1918-1937

Edited and Introduced by **Roger Buckley**, Former Professor of International Christian University, Tokyo

Foreword by **Anthony Best**, London School of Economics

2016 年 1 月刊行　全約 3,600 頁　本体セット価￥148,000-（＋税）　ISBN: 978-4-902454-91-8

第二次世界大戦後 70 年を迎え、歴史学をはじめ、政治学や国際関係学分野でも多様な太平洋戦争研究が盛んになっていますが、公文書や様々な一次資料を扱いながらこの戦争に至った経緯や原因などに関する重要な歴史研究が展開している一方、この時代に海外からどのような視線が日本や極東アジアに向けられ、戦時色の強まるこの地域に関して世界全体でどのような議論がなされていたのかについて、同時代に海外で読まれていた文献を検証しての研究はまだ充分になされてはいないと言えます。本コレクションは、今後国内外でより深い研究対象となると思われるこのテーマに関しての文献を広く集め、時代別に 2 回配本、各 6 巻、合計 12 巻の研究資料集として提供するものです。

■第 1 回配本：日中・太平洋戦争戦　前期編（全 6 巻）　収録文献■

Foreword by **Antony Best**
Preface &Acknowledgements
Introduction: The Rise and Fall of 'The Coming Power of Asia', by **Roger Buckley**

VOLUME 1: JOURNALS

1-1 G. Shibata, What Japan is Thinking, *The New Republic*, 13 July 1918, pp. 313-315

1-2 James Thayer Addison, The Value of Japanese Promises, *The New Republic*, 17 September 1919, pp. 202-205

1-3 John Dewey, The American Opportunity in China, *The New Republic*, 3 December 1919, pp. 14-17

1-4 Masujiro Honda, National, Racial and International Sentiments: Japanese-Chinese-American Relations in the League of Nations, *The Journal of International Relations*, 10, 3, January 1920, pp. 245-250

1-5 Payson J. Treat, The Shantung Issue, *The Journal of International Relations*, 10, 3, January 1920, pp. 289-312

1-6 Benny Kumar Sarkar, The International Fetters of Young China, The Journal of International Relations, 11, 3, January 1921, pp. 347-368

1-7 Kenneth Scott Latourette, Japan and America, *The Journal of International Relations*, 12, 1, July 1921, pp. 14-26

1-8 Frederick Moore, The Washington Conference and the Foreign Policies of Japan, *The Journal of International Relations*, 12, 4, April 1922, pp. 474-484

1-9 B, anonymous, The Situation in the Far East, *Foreign Affairs*, June 1923

1-10 Stanley K. Hornbeck, Has the United States a Chinese Policy?, *Foreign Affairs*, 5, 4, July 1927, pp. 617-632

1-11 Hiram Bingham, New China's Political Bible, *Foreign Affairs*, 6, 2, January 1928, pp. 203-216

1-12 K. K. Kawakami, Manchuria: The Crux of Chino-Japanese Relations, *Foreign Affairs*, 6, 3, April 1928, pp. 379-394

1-13 Franklin D. Roosevelt, Our Foreign Policy: A Democratic View, *Foreign Affairs*, 6, 4, July 1928, pp. 573-586

1-14 Harold S. Quigley, Foreign Concessions in Chinese Hands, *Foreign Affairs*, 7, 1, October 1928, pp. 150-155

1-15 Walter H. Mallory, China's New Tariff Autonomy, *Foreign Affairs*, 7, 3, April 1929, pp. 497-499

1-16 Comparative Naval Strengths, *Foreign Affairs*, 7, 3, April 1929, pp. 500-501

1-17 Nathaniel Peffer, What Next in China? I. Relations with the Great Powers, *The New Republic*, 17 July 1929, pp. 225-227

1-18 Harold S. Quigley, The United States in the Pacific: A Survey of the Relations of the United States with China and American Opinion Thereon. August 1, 1927 - June 1, 1929, *Pacific Affairs*, 2, 8, August 1929, pp. 470-495

1-19 K.K. Kawakami, The Russo-Chinese Conflict in Manchuria, *Foreign Affairs*, 8, 1, October 1929, pp. 52-68

1-20 Walter Lippmann, The London Naval Conference: An American View, *Foreign Affairs*, 8, 4, July 1930, pp. 499-518

1-21 Editorial, The Stimpson Letter, *The New Republic*, 9 March 1932, pp.85-87

1-22 P., Communism in China, *Foreign Affairs*, 9, 2, January 1931, pp. 310-316

1-23 Yusuke Tsurumi, Japan in the Modern World, *Foreign Affair*s, 9, 2, January 1931, pp. 254-265

1-24 A. Lawrence Lowell, Manchuria, the League, and the United States, *Foreign Affairs*, 10, 3, April 1932, pp. 351-368

1-25 Kikujiro Ishii, The Permanent Bases of Japanese Foreign Policy, *Foreign Affairs*, 11, 2, January 1933, pp. 220-229

1-26 E.M. Gull, Second Thoughts on the Lytton Report, *Transactions of The Japan Society London*, Vol. XXX, 1933, pp. 39-51

1-27 Yosuke Matsuoka, Speech to Japan Society, *Transactions of The Japan Society London*, 1933, pp. 4-7

1-28 William V. Pratt, The Setting for the 1935 Naval Conference, *Foreign Affairs*, 12, 4, July 1934, pp. 541-552

1-29 Political Parties of Japan in Critical Period, *Japan Today and Tomorrow*, No. 7, 1933/34, pp.56-57

1-30 Bosworth Goldman, China Old and New, *The Spectator*, 21 December 1934, p. 970

1-31 Kichisaburo Nomura, Japan's Demand for Naval Equity, *Foreign Affairs*, 13, 2, January 1935, pp. 196-203

1-32 Nathaniel Peffer, We Drift Toward War in the Orient, *The New Republic*, 20 March 1935, pp. 154-156

1-33 Walter Lippmann, Britain and America: The Prospects of Political Cooperation in the Light of Their Paramount Interests, Foreign Affairs, 13, 3, April 1935, pp. 363-372

1-34 A.J. Grajdanzev, Profit and Loss in Manchuria, *Pacific Affairs*, 8, 2, June 1935, pp. 144-158

1-35 Hector C. Bywater, Japanese and American Naval Power in the Pacific, *Pacific Affairs*, 8, 2, June 1935, pp. 168-175

1-36 Reijiro Wakatsuki, The Aims of Japan, *Foreign Affairs*, 13, 4, July 1935, pp. 583-594

1-37 Nathaniel Peffer, America: The Jellyfish of the Pacific, *Pacific Affairs*, 8, 3, September 1935, pp. 284-291

1-38 Frederick Whyte, The Institute of Pacific Relations and the Crisis in the Far East, *Pacific Affairs*, 9, 1, March 1936, pp. 5-12

1-39 Guenther Stein, Through the Eyes of a Japanese Newspaper Reader, *Pacific Affairs*, 9, 2, June 1936, pp. 177-190

1-40 Norman H. Davis, The New Naval Agreement, *Foreign Affairs*, 14, 4, July 1936, pp. 578-583

1-41 George E. Taylor, The Powers and the Unity of China, *Pacific Affairs*, 9, 4, December 1936, pp. 532-543

1-42 Hu Shih, The Changing Balance of Forces in the Pacific, *Foreign Affairs*, 15, 2, January 1937, pp. 254-259

1-43 Freda Utley, Population and Conquest, *Pacific Affairs*, 10, 1, March 1937, pp. 16-30

1-44 William Henry Chamberlin, Naval Bases in the Pacific, *Foreign Affairs*, 15, 3, April 1937, pp. 484-494

1-45 Yosuke Matsuoka, The South Manchuria Railway Company: Its Great Mission and Work, *Contemporary Manchuria*. Vol. 1, No.1, April 1937, pp. i-ii, 1-14

1-46 Bruno Lasker, Propaganda as an Instrument of National Policy, *Pacific Affairs*, 10, 2, June 1937, pp. 152-160

1-47 Ching-Chun Wang, China Still Waits the End of Extraterritoriality, *Foreign Affairs*, 15, 4, July 1937, pp. 745-749

1-48 Gregory Bienstock, Japan and the Future of Europe, *The Spectator*, 27 August 1937, p. 339

1-49 Robert S. Morton, Japan and China: A War of Minds, *Pacific Affairs*, 10, 3, September 1937, pp. 305-314

1-50 Jonathan Mitchell, Roosevelt's Far Eastern Policy, *The New Republic*, 15 September 1937, pp. 147-148

1-51 Ralph Morton, Manchuria: After Six Years, *The Spectator*, 24 September 1937, p. 498

1-52 Nathaniel Peffer

The Price of Japanese Imperialism, *Foreign Affairs*, 16, 1, October 1937, pp. 21-33

1-53 Franz Michael, Japan's 'Special Interests' in China, *Pacific Affairs*, 10, 4, December 1937, pp. 407-411

1-54 A. Morgan Young, The Press and Japanese Thought, *Pacific Affairs*, 10, 4, December 1937, pp. 412-419

VOLUME 2: JAPAN

2-1 Kojiro Sato, *If Japan and America Fight*, 1921, pp. 1-10, 179-189

2-2 K.K. Kawakami, *What Japan Thinks*, 1921, pp. 1, 5-9, 93-141, 160-170

2-3 Vice Admiral Tetsutaro Sato, Japan's Navalism, *What Japan Thinks*, 1921, K.K. Kawakami (ed.), pp. 93-103

2-4 Henry Satoh, Militarism and Navalism in America, *What Japan Thinks*, 1921, K.K. Kawakami (ed.), pp. 104-131

2-5 Premier Takashi Hara, Harmony between East and West, *What Japan Thinks*, 1921, K.K. Kawakami (ed.), pp. 132-141

2-6 Marquis Shigenoru Okuma, Illusions of the White Race, *What Japan Thinks*, 1921, K.K. Kawakami (ed.), pp. 160-170

2-7 The Japanese Association in China, *Presenting Japan's Side of the Case*, 1931, pp. iii, v-vii, 1-77

2-8 Motosada Zumoto, *Sino-Japanese Entanglements, 1931-1932, a military record*, 1932, pp. title, copyright, i-iii, 7-29, 71-79, 105-145, 174-185, 204-231, 291-302

2-9 K.K. Kawakami, *Japan Speaks on the Sino-Japanese Crisis*, 1932, pp. iii-xvi, 1, 21-39, 85-118, 131-184

2-10 Ambassador to USA Hirohi Saito, *Japan's Policies and Purposes*, 1935, pp. iii-xi, 1-56, 82-102, 118-152, 216-224

2-11 Tatsuji Takeuchi, *War and Diplomacy in the Japanese Empire*, 1935, pp. iii-xix, 9-21, 337-421

VOLUME 3: CHINA-PART I

3-1 Ge-Zay Wood, *The Shantung Question*, 1922, pp. contents, 13-17, 102-1171, 213-265

3-2 Shuhsi Hsu, *Essays on the Manchurian Problem*, 1932, pp. xxiv + 150

3-3 Edwin Lo-Tien Fang, *Manchuria: A Second Korea?*, 1934, pp. iii, 58-213

3-4 E. Krueger, Sino-Japanese Relations Reviewed, The China Quarterly, 2, 4, special fall edition, 1937, pp. 575-586

3-5 A Commentator, Sino-Japanese War in Shanghai, *The China Quarterly*, 2, 4, special fall edition, 1937, pp. 609-627

3-6 C.L. Hsia, Some Pre-Requisites to the Shanghai Neutralisation Scheme, *The China Quarterly*, 2, 4, special fall edition, 1937, pp. 629-641

3-7 Harry Paxton Howard, Japan's Claim to Combat Bolshevism in China, *The China Quarterly*, 2, 4, special fall edition, 1937, pp. 659-673

3-8 Wang Chung-hui, Symposium on the Sino-Japanese Conflict: How America Can Support China, *The China Quarterly*, 2, 4, special fall edition, 1937, pp. 691-694

3-9 Alfred S. K. Sze, Symposium on the Sino-Japanese Conflict: Boycotting Japanese Goods, *The China Quarterly*, 2, 4, special fall edition, 1937, pp. 697-699

3-10 Madame Chiang Kai-shek, Symposium on the Sino-Japanese Conflict: China Fights for Freedom, *The China Quarterly*, 2, 4, special fall edition, 1937, pp. 699-702

3-11 T. V. Soong, Symposium on the Sino-Japanese Conflict: Isolation and Constructive Pacifism, *The China Quarterly*, 2, 4, special fall edition, 1937, pp. 702-704

VOLUME 4: CHINA-PART II

4-1 Edward Bing-Shuey Lee [Li, Ping-jui], *Two Years of the Japan-China Undeclared War And the Attitude of the Powers*, 2nd Edition, Shanghai: The Mercury Press, 1933. With forewords by Sun Fo, Hu Han-Min,C.T. Wang, Lo Wen-Kan, C.C. Wu & Wellington Koo and Introduction to 2nd Edition by Eugene Chen, pp. xxiv+613+8 maps + 45 pages of illustrations

VOLUME 5: USA

5-1 Yamato Ichihashi, *The Washington Conference and After* [extracts], Stanford University Press, 1928

5-2 Sherwood Eddy, *The World's Danger Zone* [extracts], Farrar & Rinehart, New York, 1932

5-3 Frederick Field, *Battle of the Bankers, Empire in the East*, 1934, Joseph Barnes (ed.), pp. iii-vii, map, 149-181

5-4 Pearl Buck, *Missionaries of Empire, Empire in the East*, 1934, Joseph Barnes (ed.), pp. 241, 254-266

5-5 Nathaniel Peffer, *Peace or War, Empire in the East*, 1934, Joseph Barnes (ed.), pp. 297-318

5-6 Walter Millis, *The Future of Sea Power in the Pacific*, 1935, pp. cover, inner cover, 1-51

5-7 E.E.N. Causton, *Militarism and Foreign Policy in Japan*, 1936, pp. title, contents, 131-183

5-8 *Eleanor Tupper and George McReynolds Japan in American Public Opinion*, 1937, pp. iii, vii-xiii, xvii-xix, 112-169, 240-454

VOLUME 6: UK

6-1 An Ex Counsellor of legation in the Far East [Sidney Osborne], *The Problem of Japan*, 1918, pp. cover, i-viii, 1-272

6-2 Hector C. Bywater, *The Great Pacific War: A History of the American-Japanese Campaign of 1931-33*, 1925, pp. iii-ix, 1-14, 297-304

6-3 Lieut-Colonel P.T. Etherton & H. Hessell Tiltman, *The Pacific: A Forecast*, 1928, pp. iii, iv, vii-ix, 149-199

6-4 Hugh Latimer, *Naval Disarmament: A Brief Report*, 1930, pp. i-x, 1-112

6-5 Hessell Tiltman, *The Far East Comes Nearer*, 1937, pp. 3-6, 97-121, 181-199, 324-337

西洋の論じた日中・太平洋戦争

同時代英語文献復刻シリーズ

第２回配本：太平洋戦争 戦中期編　全６巻

【編集・解説】ロジャー・バックリー（元国際基督教大学教授）

Wars and Rumours of War - Japan, the West and Asia Pacific, 1918-1945

Selected Contemporary Readings on Crises and Conflict, Series II: 1941-1945

Edited and Introduced by **Roger Buckley**, Former Professor of International Christian University, Tokyo
Foreword by **Anthony Best**, London School of Economics

2017 年 3 月刊行　全約 3,600 頁　本体セット価￥118,000-（＋税）　ISBN: 978-4-902454-91-8

■第２回配本：日中・太平洋戦争戦中期編（全６巻）　収録文献■

Foreword by AKIRA IRIYE
Introduction “The End of Western Supremacy in Asia” by ROGER BUCKLEY

VOLUME I: JAPAN

1-1 Hikomatsu Kamikawa, The Bolshevization of Asia, *Contemporary Japan*, December 1937, 393-404
1-2 Ujiro Ohyama, The American Position: Cat'spaw or Common Sense, *Contemporary Japan*, December 1937, 464-474
1-3 Lt-Comdr Tota Ishimaru, I.J.N., *Japan Must Fight Britain*, The Paternoster Library, no. XI, 1937, 288pp.
1-4 Dr Kazutami Ukita, Humanity at the Crossroads, *Dai Nippon 1938*, 1938, 26-33
1-5 Shingoro Takaishi, *Japan Speaks Out*, 1938, ii, iii, v-ix, 1-73, 93-128, 135-147, 151-159
1-6 Yosuke Matsuoka, *Building Up Manchuria*, 1938, i-ii, 1-6, 1-2, 1-2, 2pp, 1-11, 28-35, 48-89, 103-116, 126-135, 173-213, 227-236
1-7 Shigemitsu, Shigemitsu speech, *Proceedings of the Japan Society London*, xxxvi, 1939, xviii-xxii
1-8 Viscount Kano, Viscount Kano speech, *Proceedings of the Japan Society London*, xxxvi, 1939, xxv-xxix
1-9 Yakichiro Suma, *Where Japan Stands: Addresses Delivered in America on the Sino-Japanese Conflict*, 1940, 49-76, 196-201, 214-225
1-10 Kinaoki Matsuo, trans Kilsoo K. Haan, *How Japan Plans to Win*, 1942, cover, iii-xxiv, 1-46, 196-201, 202-226, 234-323

VOLUME II: CHINA

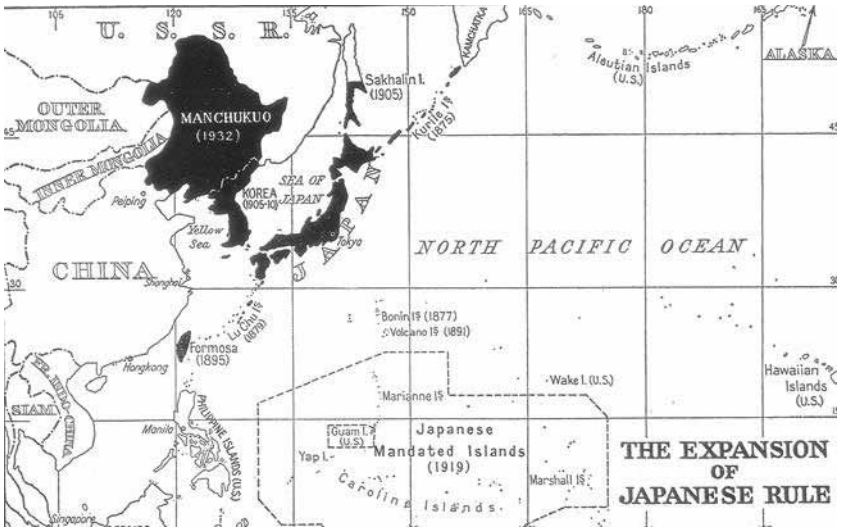
2-1 Shuhsi Hsu, *The War Conduct of the Japanese*, 1938, 217pp.
2-2 Stephen C.Y. Pan, *American Diplomacy Concerning Manchuria*, 1938, i-iii, xix, 293-346
2-3 D.K. Lieu, The Sino-Japanese Currency War, *Pacific Affairs*, December 1939, 413-426
2-4 Chiang Kai-shek, *Crimes and Corruption of the Japanese Militarists*, 7 July 1940, 15pp.
2-5 Tan Pei-Ying, *The Building of the Burma Road*, 1945, prelims + map (7), 24-25, 37-60, 194-200
2-6 Chiang Kai-shek, *The Northeast - Fourteen Years After*, 18 September 1945
2-7 F.C. Jones, *Shanghai and Tientsin: with special reference to foreign interests*, 1940, cover, ii-iii, vii-xxxii, 1-9, 18-20, 36-49, 57-83, 87-93, 104-105
2-8 Eugene Staley (International Labour Office), *World Economic Development: Effects on Advanced Industrial Countries*, 1944, 68-75, 94-104
2-9 Gunther Stein, *The Challenge of Red China*, 1945, extracts

VOLUME III: USA [1]

3-1 Julia E. Johnsen, *Chinese-Japanese War*, *1937-*, 1938, 1-21, 66-74, 87-93, 99-111, 132-133, 147-161, 180-183, 188-197, 220-223, 255-257
3-2 William Henry Chamberlin, *Japan Over Asia*, 1938, i-xii, 13-72, 122-146, 302-318
3-3 John Gunther, *Inside Asia*, 1939, 1-92, 102-134, 234-249
3-4 James Farquharson Leys, *The Better Earth*, 1940, i-v, 43-45, 97-101, 109-114
3-5 Chitoshi Yanaga, Recent Trends in Japanese Political Thought, *Pacific Affairs*, June 1940, 25-127
3-6 Charles B. Fahs, *Government in Japan: Recent Trends in its Scope and Operation*, 1940, xi-xiii, xv, 3-61, 81-89
3-7 Lawrence K. Rosinger, Soviet Far Eastern Policy, *Pacific Affairs*, 13, 3, September 1940, 263-278
3-8 William Henry Chamberlin, *Japan in China*, 1940, 7-43, 44-74, 127-143

VOLUME IV: USA [2]

4-1 Claude A. Buss, *War and Diplomacy in Eastern Asia*, 1941, 42-195, 499-550
4-2 William H. Taylor and Robert A. Brady, Policy Centralization in Japan Under the Kokutai Principle, *Pacific Affairs*, 14, 1, March 1941, 51-77



4-3 William C. Johnstone, *The United States and Japan's New Order*, August 1941, rev. ed., title, vii-xii, 283-335, 350-366

4-4 G. Nye Steiger, Japan's New Pro-Axis Premier, *Current History*, December 1941, 349-353

4-5 Kurt Bloch, 'Guns and Butter' in Japan, *Pacific Affairs*, December 1941, 416-429

4-6 George E. Taylor, America's Pacific Policy: The Role and the Record, *Pacific Affairs*, December 1941, 430-447

4-7 Edward W. Mill, Japan Losing the Initiative, *Current History*, October 1942, 100-105

4-8 George E. Taylor, *America in the New Pacific*, 1942, 1-35, 69-97, 113-156

4-9 Ira Wolfert, *Battle of the Solomons, October-November 1942*, 1943, contents, 1-16, 97-118, 185-200

VOLUME V: USA [3]

5-1 Kate L.Mitchell, *Japan's Industrial Strength*, 1942, i-ix, 140, index

5-2 Paul M.A. Linebarger, *The China of Chiang K'ai-shek*, 1943, 254-281

5-3 Frederick Moore, The Emperor Did Not Want War, *World Affairs*, 1943, 45-52

5-4 T.A. Bisson, Problems of War Production Control in Japan, *Pacific Affairs*, 16, 3, September 1943, 301-310

5-5 A.J. Grajdanzev, Japan's Co-Prosperity Sphere, *Pacific Affairs*, 16, 3, September 1943, 311-328

5-6 Harriet L. Moore, *Soviet Far Eastern Policy: 1931-1945*, 1945, v-xi, 80-125, 126-149, 240-277

5-7 General Victor A. Yakhontoff, Should Russia Fight Japan?, *Current History*, January 1945, 1-6

5-8 Robert S. Ward, *Asia for the Asiatics: The Techniques of Japanese Occupation*, 1945, title, v-xi, map (2), xiii-xiv, 1-37, 84-95, 160-200

5-9 T.H. Thomas, Advance in Asia, *Current History*, July 1945, 12-17

5-10 Major Ben Bruce Blakeney, The Japanese High Command, *Military Affairs*, Summer 1945, 95-113

5-11 Fritz Sternberg, Japan's Economic Imperialism, *Social Research*, 12, 3, September 1945, 328-349

5-12 Mark R. Shaw, What Drove Japan to War?, *Peace Action*, September 1945, p.3

VOLUME VI: UK

6-1 Walter H. Mallory, Japan Attacks: China Resists, Foreign Affairs, October 1937, 129-142

6-2 Hector C. Bywater, Britain on the Seas, *Foreign Affairs*, 16, 2, January 1938, 210-221

6-3 G.M. Gathorne-Hardy, A Short History of International Affairs, 1920 to 1938, *The Far East*, December 1938, rev. ed., ch XIX - 301-334

6-4 Anon., China and Japan, *Info Dept papers*, 21, 1939, 151pp.

6-5 Winston S. Churchill, What Japan Thinks Of Us, *Step by Step*, 1936-1939, 1939, 193-196

6-6 Winston S. Churchill, Japan Entangled, *Step by Step*, 1936-1939, 1939, 233-236

6-7 Winston S. Churchill, The Japanese Burden, *Step by Step*, 1936-1939, 1939, 281-286

6-8 George Sansom, Liberalism in Japan, *Foreign Affairs*, 19, 3, April 1941, 551-560

6-9 Hugh Byas, *The Japanese Enemy: His Power and His Vulnerability*, 1942, 5-88

6-10 Ian Morrison, *This War Against Japan: Thoughts on the Present Conflict in the Far East*, 1943, 119pp. + photos

6-11 Paul Einzig, *The Japanese New Order in Asia*, 1943, title, v-xii, 1-22, 47-55, 66-76, 137-145

6-12 Peter de Mendelssohn, *Japan's Political Warfare*, 1944, title, 5-66, 77-82, 104-185

6-13 Bernard Fergusson, *Beyond the Chindwin*, 1945, title, 5-23, 100-114, 238-242

シリーズ

欧米ジャーナリストの記した近代日本・中国・東アジア

Western Journalists on Japan, China and Greater East Asia

【編集・解説】Peter O'Connor（ピーター・オコーノ　武蔵野大学教授）

第 1 回配本 : 欧米ジャーナリストの記した戦前期日本

残部僅少　**16 文献　合本 10 巻**

Western Journalists on Japan, China and Greater East Asia, Series 1: Japan 1897-1942

2012 年 12 月刊行　約 4,000 頁　本体セット価￥168,000-（＋税）　ISBN: 978-4-86166-171-6

西洋列強に対抗し東アジア各地の植民地化を進めた日本は、当時の西洋メディアが最も力を注いだ報道対象の地域の一つで、多くのジャーナリストが日本･アジアを舞台に積極的な報道合戦を繰り広げました。彼らの中には日本の立場に好意的で、その言論が日本政府に利用される者から、中国を擁護し反日報道を西洋向けに発信する者まで、それぞれ異なる主義、主張を持ち活動を続けました。弊社ではこれまでに、この時代の日本に関する西洋文献を、『ジャパニーズ・プロパガンダ』（全 20 巻）、『日本批判』（全 20 巻）のシリーズにまとめてまいりましたが、新たに企画されたシリーズでは、戦前・戦中期に活躍した西洋人ジャーナリストによる著述を、時代、地域別に編集復刻いたします。全 40 巻中に 60 ～ 70 点の文献を収録する予定で、日本だけでなく中国や東アジア全体に関する文献も幅広く対象とし、中国や日本の英字新聞社からの出版物も含まれます。また、女性ジャーナリストによる著作のみをまとめたコレクションも第 *2* 回に配本予定です。

2012 年秋刊行の第 1 回配本は、戦前期に日本を主な拠点として活動した英米ジャーナリスト 14 名の日本に関する著作集成です。幕末維新から 19 世紀末に出版された西洋人の日本関連書の多くが、旅行家やジャパノロジストによる日本文化への憧憬から著されていたのに対し、19 世紀末から 20 世紀前半のこれらの日本関連書は、ジャーナリストならではの冷徹な視線で世界の一員となった日本を語り、その多くが太平洋戦争へとつきすすむ日本を批評的に論じています。

戦前の日本と中国、東アジアや西洋の関係、国際政治とメディアの関わりなどの包括的研究の資史料集として、広くご活用ください。

■収録文献■

VOL. 1: General Introduction: Peter O'Connor

Young, Robert, **'The Case of the Foreign Residents in Japan'**. In The Nineteenth Century, Vol. XLII, 1897, London: Sampson, Low, Marston & Stebbing, 1897.

Gallagher, Patrick, ***America's Aims and Asia's Aspirations***, New York: The Century Co., 1920.

VOL. 2: Pooley, A.M., ***Japan at the Cross Roads***, London: George Allen & Unwin Ltd., 1917.

Mason, Gregory, ***Japan, Germany, Russia and the Allies. An Authorized Interview with Count Masataka Terauchi, Premier of Japan***, New York: *The Outlook*, May 1918, pp18-22.

Henry W. Kinney, ***Japan Since the Earthquake***, *A Series of articles on recent developments. Peking Leader Reprints No.6*, Peking: Peking Leader Press, 1925.

VOL. 3: ***Japan Chronicle, The Great Earthquake of September 1st 1923***, Kobe: The Japan Chronicle, 1923.

Young, Douglas M. (ed.), ***Kobe - The Premier Port of Japan. Illustrated. Issued in Commemoration of the First Port Festival, November 1933***, Kobe: Kobe and Osaka Press Ltd., 1933.

VOL. 4: Captain Kennedy, Malcolm, ***The Problem of Japan***, London: Nisbet & Co., 1935.

Kennedy, M.D., ***Behind the News in Tokio***, London: Transactions and Proceedings of The Japan Society, Vol.XXXIII, 45th Session, 1935-1936, [pp.93-09].

VOL. 5: Price, Willard, ***Children of the Rising Sun***, New York: National Travel Club, 1938.

VOL. 6: Oliver, Frank, ***Special Undeclared War***, London: Jonathan Cape, 1939.

VOL. 7: Young, A. Morgan, ***The Rise of a Pagan State. Japan's Religious Background***, London: George Allen and Unwin, 1939.

May, Henry John, ***Little Yellow Gentlemen***, London, Toronto, Melbourne and Sydney: Cassell, 1937.

VOL. 8: Chamberlin, William Henry, ***Japan Over Asia***, London: Duckworth, 1938.

VOL. 9: Fleisher, Wilfrid, ***Volcanic Isle***, New York: Doubleday Doran and Company, 1941.

VOL. 10: Abend, Hallett, ***Japan Unmasked***, London: The Bodley Head, 1941.

第 2 回配本

女性ジャーナリストの記した戦前・戦中期の日本・中国・東アジア　11 文献　合本 10 巻

Western Journalists on Japan, China and Greater East Asia, Series 2: Pioneering Women Journalists, 1919-1949

編集・解説：Peter O'Connor（**武蔵野大学教授**）　**序文**：**土屋礼子（早稲田大学教授）**

2014 年 5 月刊行　約 4,150 頁　本体セット価￥198,000-（＋税）　ISBN: 978-4-86166-172-3

戦前・戦中期に活躍した西洋人ジャーナリストによる日本・アジア関連著述を復刻集成するシリーズの第 2 回配本は、20 世紀前半に東アジアからの報道の場で活躍した、英米女性ジャーナリストたちの著作を集めます。19 世紀後半、社会的に自立し、活動の場を世界に求めた欧米の「新しい」女性たちは、当初、教師、宣教師や看護婦などの職につきアジアやアフリカの植民地を目指しますが、20 世紀に入ると国際報道に職を得て、ジャーナリストとして世界各地で活躍する女性たちが現れます。彼女たちの内には新聞・雑誌社の記者として中国や日本に派遣され、様々な記事を送ると同時に、その経験や見聞を執筆、単行本として出版した者もいました。

本コレクションではそのような女性ジャーナリスト 11 名による著書 15 点を復刻集成します。戦前、戦中期に東アジアの最前線に身を投じた彼女たちは、当時の政治情勢だけでなく、社会の内面へもより強い関心を持ち、幅広い問題に関する著述を残しており、そのなかには、*Gentlemen of Japan: A Study in Rapist Diplomacy* のような戦中の日本に関する書籍や、Ellen Thorbecke による香港や上海の報道写真集のように、入手の困難な中国の英文出版社の刊行物なども含まれます。

東アジア近代史、メディア史研究だけでなく、女性史、ジェンダー史研究の資料としてもお薦めいたします。

■収録内容■

Vol. 1: General Introduction: Peter O'Connor / Preface: Reiko Tsuchiya
La Motte, Ellen, ***Peking Dust***, New York: Century, 1919, c. 250 pp.
La Motte, Ellen, ***The Ethics of Opium***, New York: Century, 1924, c. 205 pp.

Vol. 2: Harrison, Marguerite, ***Red Bear or Yellow Dragon?***, New York: George H. Doran Company, 1924, c. 300 pp.

Vol. 3: Munday, Madeleine C., ***Far East***, London: S. Paul, 1935, c. 290 pp.
Munday, Madeleine C., ***Rice Bowl Broken***, London: Hutchinson, 1947, c. 145 pp.

Vol. 4: Booker, Edna Lee [Edna Lee Potter], ***News is My Job: A Correspondent in War-Torn China***, New York: Macmillan, 1941, c. 400 pp.

Vol. 5: Oakes, Vanya (1943) ***White Man's Folly***, Boston: Houghton Mifflin, pp.415

Vol. 6: Sues, Ilona Ralf (1944) ***Shark's Fins and Millet***, New York: Garden City Publishing, pp.331

Vol. 7: Haven, Violet Sweet, ***Gentlemen of Japan: A Study in Rapist Diplomacy***. With a Foreword by James R. Young, Chicago, New York: Ziff-Davis, 1944, c. 350 pp.

Vol. 8: Hahn (Hahn Boxer), Emily, ***Hong Kong Holiday***, New York, Doubleday & Company, 1946, c.315pp.
Thorbecke, Ellen, ***Hong Kong***, photographed and depicted by Ellen Thorbecke with sketches by Schiff, Shanghai: North China Daily News & Herald Ltd., c. 1938, c. 70 pp.

Vol. 9: Thorbecke, Ellen, ***Shanghai***, photographed and depicted by Ellen Thorbecke with sketches by Schiff, Shanghai: North China Daily News & Herald Ltd., c. 1937, c. 88 pp.
Argall, Phyllis, ***Prisoner in Japan***, London: Geoffrey Bles, 1945, c. 256 pp.

Vol. 10: Strong, Anna Louise, ***China Fights for Freedom***, London L. Drummond, 19 39, c. 240 pp.
Strong, Anna Louise, ***The Chinese Conquer China***, New York: Doubleday, 1949, c. 282 pp.

占領下日本―同時代英語文献集成

第 2 回配本：パンフレット、新聞・雑誌記事復刻集成　全 10 巻

The Post-War Occupation of Japan 1945-1952,

from Pre-Surrender to Post-San Francisco Treaty,

Series 2: Pamphlets, Journal Articles & Press

【編集・解説】Roger Buckley（元国際基督教大学教授）　【序文】Arthur Stockwin（オックスフォード大学名誉教授）

2013 年 5 月刊行　B5 判変形　本体セット価￥168,000-（＋税）　ISBN: 978-4-86166-151-8

★貴重な一次史料含む 240 点強の文献のコレクション★

占領期日本に関する同時代の主要英語文献・資料を編集復刻するシリーズの第 2 回（完結）編です。第 2 回は雑誌、新聞やパンフレットに発表された記事、論文や GHQ の報告書など 240 点強を 10 巻に収録します。第 2 次大戦末に始まっていた占領日本に関する米国内あるいは連合国間の議論、占領期の政策、東京裁判や新憲法制定、サンフランシスコ平和条約等々に関する公的な報告や新聞・雑誌に報道など、同時代の英文主要史資料の一覧参照を可能にする至便な文献集です。

占領下日本の統治については、連合各国間だけでなくアメリカ政府やメディア、世論の間にも多くの異論がありましたが、その議論の過程は公式な資料とともに、一般の新聞、雑誌、専門・学術誌などの記事を広く通観することにより、より鮮明に浮かび上がってきます。しかしながら、公的機関、半官的な組織の報告書、会報やパンフレット、*New York Times*、*Fortune*、*The Economists* など一般誌紙、Institute of Pacific Relations（太平洋問題調査会）の出版した *Pacific Affairs* 誌、American Institute of Pacific Relations 刊行の *Far Eastern Survey*、そして日本人ジャーナリストや知識人が英文で刊行した *Contemporary Japan* 誌のような民間のオピニオン誌等々、膨大な量の出版物に発表されたこの時代の調査、探索には多大な時間を要します。これら多数の文献から立場の異なる著者、出版団体による報告、記事、論文などをバランスよく選書している本コレクションは、占領期研究だけでなく、より広く日本近代史、戦中・戦後史の研究や教育に必携のレファレンスです。

◆推薦文◆

60 年間維持されてきた日米同盟の原点は、終戦前後米国その他の国で、日本の将来が真剣に、そして細部にわたって考慮されていたことにある。まだ当時の段階ではその後の日米関係の枠組みが明確にとらえられていたわけではなかったが、多くの学者、ジャーナリスト、政治家などが敗戦後の日本の国内政治・社会や対外関係について検討し、意見を交換していたことは、現代の例えばアフガニスタン、イラクなどにおける米国側の準備不足とは対照的である。日本にかんする膨大な量の書物が当時出版されたのは、日米間の知的心理的距離を縮める役割をはたすものだったといえる。この書物の大部分は長い間埋もれたままになっていたが、今回その中から特に占領史、戦後日米関係史の理解に役立つものが選択され、出版される運びとなったことを喜びたい。選択にあたったバックリー博士による解題も、占領そしてその後の日米関係の特徴について、突っ込んだ解説を提供している。　入江 昭（ハーバード大学名誉教授）

●各巻テーマ●

VOLUME 1: War / Surrender / Occupation, 1942-1945
VOLUME 2: US Policies and Commentaries, 1946-1950
VOLUME 3: Allied and Japanese Voices, 1943-1951
VOLUME 4: Peace-making, 1951
VOLUME 5: The Aftermath, 1952-1955
VOLUME 6: US Handbooks and Initial Directives, 1944-1945
VOLUME 7: Japan's New Constitution, 1945-1949
VOLUME 8: Financial and Economic Reportage, 1949
VOLUME 9: Economic, Welfare and Educational Reforms, 1949-1950
VOLUME 10: Educational Review, 1952

黄禍論－英語文献復刻シリーズ－

第１回配本：英国黄禍論小説集成　全７巻

Yellow Peril, Collection of British Novels 1895 - 1913

残部僅少

【編集・解説】橋本順光（大阪大学）

2007 年 1 月刊行　本体セット価 ￥138,000 -(＋税)　ISBN: 978-4-86166-031-3

●世紀転換期に欧米で吹き荒れた反東洋、黄禍論に関する同時代の一次資料を集成する新シリーズ
●第 1 回配本は「怪人フー・マンチュー博士」シリーズに代表される英国の小説 9 編の初版または今日の研究に重要な版を図版含め復刻
●続刊では黄禍論に援用された日本人、東洋人の著作も収録し、この時代の西洋 vs. 東洋のメディア戦争を再現

黄禍論－英語文献復刻シリーズ－

第２回配本：黄禍論史資料集成　全４巻

Primary Sources of Yellow Peril Series II

Yellow Peril, Collection of Historical Sources

【編集・解説】橋本順光（大阪大学）

2012 年 6 月刊行　A5 判・約 1,900 頁　本体セット価￥118,000- (＋税）　ISBN: 978-4-86166-033-7

●反日･反アジア主義小説集の第一回配本に続き、今回はそれらの小説とも密接に関連する史資料 40 点を復刻集成。
● 19 世紀末から第一次世界大戦まで、作家、外交官、研究者、ジャーナリストらの論説や研究書からの抜粋、パンフレット、雑誌論文などを収録し、経済的・軍事的脅威論の系譜を追う文献集。
●同時に、日本やアジアのナショナリストたちの反論も収載、東西の複雑なメディア戦争を再現する。
●日本、東アジア、英国の近代史研究だけでなく、明治から大正初期のアジアと西洋間の関係史、そして比較文学･文化、メディア史の資料として広く利用可能なコレクション

◆収録内容◆

第 1 巻：Pearson's Prediction: Yellow Peril or White Hope?
「黄禍論の予言者ピアソンとその余波」
Introduction and Bibliographic Notes by Yorimitsu Hashimoto

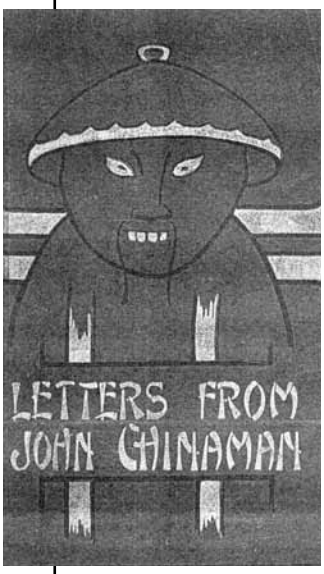
第 2 巻：The Boxer Rebellion - Letters to and from China
「中国と西洋の覚醒　義和団事件をめぐる往復書簡」

第 3 巻
Part 1: The Spectre of Genghis Khan: Japan as Model and Monster
「第 1 部 : ジンギスカンの亡霊とモデルとしての日本」

Part 2: The Russo-Japanese War as Racial Conflict
「第 2 部 : 人種戦争としての日露戦争」

第 4 巻：The Breakup of China and Asia for the Asiatics
「アジア主義への警戒と辛亥革命」

※収録文献の詳細は、http://www.aplink.co.jp/synapse/4-86166-033-7.html でご覧いただけます。



復刻集成版「コレクション・ジャパノロジスト」

ヘンリー・ダイアー著作集成　全５巻

Collected Writings of Henry Dyer

【編集・序文】三好信浩（広島大学名誉教授）

2006 年 1 月刊行　B5 判・全 2,180 頁　本体セット価￥118,000-(＋税)　ISBN 978-4-901481-83-0

工部大学校初代校長を務めた
お雇い外国人ダイアーの初の英文著作集成

『大日本』の著者として知られるヘンリー・ダイアー Henry Dyer（1848-1918）は、東京大学工学部の前身校、工部大学校の初代校長 (正式には都検) として明治 6 年（1873 年）に来日した「お雇い外国人」です。24 歳の若さで初代工部卿伊藤博文に任命された彼は、その後 10 年間工部学校長の職を務め、ともに来日した電気工学の Ayrton、化学の Divers など 8 人のイギリス人教師らと協力し日本の工学研究の礎を築きました。本書はダイアーの著作を、滞日時代に発表した工学教育に関するパンフレット類や雑誌記事を含め復刻集成。「ダイアーの日本」(福村出版、1989) の著者である編者の序文および書誌も収録されています。

■収録文献■ ＊約 2200 頁

Vol.1　Writings on Engineering Education and Japanese Problems (c.448)

Introduction by Nobuhiro Miyoshi (c. 15pp)
Bibliography (5pp)
1873　Calendar of the Imperial College of Engineering, 1873-74 (35pp)
1877　Imperial College of Engineering. General Report by the Principal (62pp)
1879　The Education of Engineers (60pp)
1880　The Education of Civil and Mechanical Engineers (E. & F. N. Spon) (44pp)
1882　Valedictory Address to the Students of the Imperial College of Engineering (6pp)
1887　On the Education of Engineers (45pp)
1887　Technical Schools (Scotland) Act, 1887 and Some of its Relations to Elementary and Higher Education (25pp)
1889　On a University Faculty of Engineering (C. F. Hodgson & Son) (40pp)
1893　Technical Education in Glasgow and the West of Scotland: A Retrospect and a Prospect (30pp)
1905　Introductory Address on the Training and Work of Engineers in their Wider Aspects (23pp)
1906　Japanese Industries and Foreign Investments (10pp)
1906　Legal Aspects of Foreign Investment in Japan (9pp)
1906　Commercial Morality of Japan (10pp)
1906　The Japanese Loan Conversion (8pp)
1908　Some Lessons from Japan (21pp)

Vol.2　Writings on Industry and Social Problems (c.421pp)

1888　The Foundations of Social Politics; An Address delivered to the Ruskin Society of Glasgow (32pp)
1890　Christianity and Social Problems; An Address delivered in Bridgeton Free Church (23pp)
1890　Missions and Missionaries (11pp)
1891　The Influence of Modern Industry on Social and Economic Conditions (48pp)
1895　The Evolution of Industry (Macmillan) (307pp)

Vol.3　Dai Nippon (466pp)

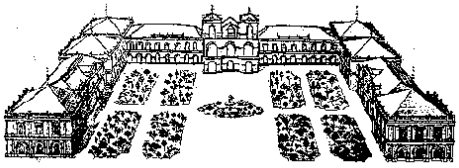
1904　Dai Nippon, the Britain of the East, a Study in National Evolution (Blackie & Son) (466pp)

Vol.4　Japan in World Politics (438pp)

1909　Japan in World Politics, a Study in International Dynamics (Blackie & Son) (438pp)

Vol.5　Writings on Education (c. 443pp)

1889　A Modern University with Special Reference to the Requirement of Science (25pp)
1892　Science Teaching in Schools (Blackie & Son) (129pp)
1894　Education in Citizenship (28pp)
1906　The Continuation Classes of the School Board of Glasgow (31pp)
1912　Education and National Life (Blackie & Son) (112pp)
1913　Education and Industrial Training of Boys and Girls (Blackie & Son) (118pp)



＋別冊日本語解説（約 60 頁）

復刻集成版「コレクション・ジャパノロジスト」

アーネスト・サトウ著作集

第２期： 新聞記事・雑誌論文集成　全５巻

日本語別冊「 英国策論 」付き

Collected Works of Ernest Mason Satow, Part 2: Collected Papers

残部僅少

2001 年 2 月刊行　A5 判・約 2,350 頁　本体セット価 ￥116,000- (＋税)　ISBN 978-4-931444-09-6

サトウの著作活動は、当初ジャパン・タイムズ、ジャパン・ヘラルド、ジャパン・ウィークリー・メイルなど日本で刊行されていた英字新聞を舞台に始まり、その後日本アジア協会誌等の学術誌にその場を移してゆきます。英国の外交政策問題から、日本史・文学の翻訳、そして後に 'Handbook for Travellers' として結実した日本各地の紀行文など実に幅広い著述がこれらの刊行物のなかに発見され、外交官研究者としてのサトウの思考、活動の軌跡をたどる上で、最も興味深い原資料になっています。本集成は無署名で発表されたものも含め、各所に散在していたこれらの著述約 80 点を集大成しています。新聞記事の一部は新版で、その他は復刻にて収録します。また、英文原書は一部所在が確認されていない「英国策論」の日本語版が付録されています。　※内容明細は http://www.aplink.co.jp/synapse/4-931444-09-1.htm でもご覧いただけます。

西洋の出会った大琉球

第２期：ペリー来航期から大戦期まで　全５巻

Ryukyu Studies: Western Encounter

Pt.2：Around-Perry and Post-Perry Material

残部僅少

編集・解説：Patrick Beillevaire, Centre de Recherche sur le Japon, EHESS, Paris

2002 年 5 月刊行　本体セット価￥115,000（＋税）　ISBN:4-931444-48-2

- ●ペリー日本遠征に関する各種の航海記や、英国海軍バックス大佐などの航海記からの抜粋。
- ●レオン・ド・ロニー、チェンバレン、コルディエやシモンの琉球研究、レブンワースの琉球記等の主要研究文献
- ●「世界周遊誌」や様々なアジア研究学術誌に発表された論文
- ●フランス宣教師メルメ・カションの手紙や、編者がパリ宣教師文書のなかから発見した未公刊資料
- ● 1879-80 年に日清間でおきた統治権をめぐる「琉球問題」に関する英字新聞紙上の報道記事集成（約 35 記事）

アイヌライブラリー・シリーズ　第２回配本

アイヌ語の起源

―印欧語系説をめぐる論文集成―　全５巻

残部僅少

Origins of the Ainu Language: The Indo-European Controversy

2003 年 7 月増刷　本体セット価￥115,000-（税込￥120,750-）　ISBN: 4-931444-01-6

アイヌライブラリー・シリーズ第 *2* 回配本は、アイヌ語の起源に関する論文の集成です。アイヌ語と各種の言語系統との関係を探る試みは、過去に数多くなされてきましたが、なかでも Pierre Naert が 1958 年に発表した 'La situation linguistique de l'Ainou' に端を発したアイヌ語印欧語系説をめぐる論争は、多くの言語学者を巻き込みました。この論争は、当初 Naert に対し Ol of Gjierman が反論する形で広がって行きましたが、その後 OlivierGuy de Tailleur, Ivan Lindquist, A.J. van Windekens 等の言語学者がそれぞれの自説を公表、より広範なアイヌ語起源をめぐる論争に膨れ上がると同時に、ア イヌ語の起源をめぐる多くの論文が、この時期集中的にヨーロッパで発表されました。本書は、この間の論争をほぼ網羅する約 60 の論文を集成しています。発行部数が少なく日本では入手の困難だっ た雑誌の論文も多数収録し（スウェーデン語の論文は英訳を掲載）、アイヌ語研究だけでなく、日本語起 源や比較言語学の今後の研究に必携の資料集となっています。編集の Kirsten Refsing 自身による序文が加えられています。

オイレンブルク
東アジア・日本遠征公式記録　全４巻　ドイツ語初版復刻

Die preussische Expedition nach Ost-Asien, nach amtlichen Quellen

2001 年 12 月刊行　本体セット価￥98,000- (＋税)　ISBN 978-4-931444-75-1
■ 底本 1864-73 年刊　A5 判　約 1,750 頁

ペリーやエルギン卿の遠征記とならぶ
日本開国期の最重要資料

残部僅少

本書は 1860-62 年にプロイセンが莫大な予算を投じて送り出した東アジア・日本への使節団の公式記録です。この遠征に関する文献は、参加メンバーによる回想録など様々な形で残されていますが、プロイセン政府の公式記録として編集されたものは本書のみで、最も詳細かつ権威ある文献です。シンガポールから江戸へ向かう航海、幕末期の日本の気候、風土、宗教、文化、芸術に関する記述、訪れた江戸、横浜、長崎での民衆や居留地での外国人の生活など、当時の日本社会や日常に関し、実に細部にまで記述されています。遠征団は日本との条約締結を果たしますが、条約締結にいたる折衝の報告や、交渉を通して観察、分析された日本の政治情勢の報告には、幕府の崩壊とその後の明治政府成立の予言も含まれており、幕末維新期の史料としての価値を高めています。原本は稀覯書で、古書でも入手は困難です。

■各巻内容■

VOL. 1
EINLEITENDES ZUM VERSTÄNDNISS DER JAPANISCHEN ZUSTÄNDE.
I. Geographische Lage und Beschaffenheit, Mythologie und Geschichte
II. Politische Einrichtungen und Zustände während der Absperrung
III. Der Fremdenverkehr während der Absperrung und die Aufschliessung des Reiches

REISEBERICHT.
I. Singapore. Vom 2. bis 13. August 1860
II. Reise der Thetis von Singapore nach Yeddo. Vom 12. August bis 14. September
III. Reise der Arkona von Singapore nach Yeddo. Vom 13. August bis 4. September
IV. Yeddo. Vom 5. bis 19. September
V. Yeddo. Vom 19. September bis 2. October

VOL. 2
VI. Yeddo. Vom 2. October bis 1. November 1860
VII. Yeddo. Vom 1. Nobember bis 7. December 1860
VIII. Die Fahrt der Elbe von Singapore nach Yeddo über Hongkong, Formosa und Nagasaki. Vom 4. September bis 3. December 1860
IX. Yeddo Vom 7. December 1860 bis 1. Januar 1861
X. Yeddo. Vom 1. bis 31. Januar 1861
XI. Fahrt der Arkona und der Thetis von Yokuhama nach Nagasaki. Aufenthalt daselbst. Vom 31. Januar bis 23. Februar 1861
XII. Reise der Arkona und der Thetis von Nagasaki nach dem Yangtsekiang. Vom 24. Februar bis 2. März 1861

Anhang I. Der Vertrag mit Japan
Anhang II. Die Ereignisse der letzten Jahre
Register zum I. und II. Bande

VOL. 3
CHINA'S BEZIEHUNGEN ZUM WESTEN BIS 1860.
I. Die älteren Berührungen und die Handelsbeziehungen bis zum Erlöschen des Monopols der englisch-ostindischen Compagnie 1834.
II. Der Opium-Handel und Opium-Krieg. Bis 1842.
III. Die Zustände nach dem Frieden von Nan-kin. Bis 1849.
IV. Die Tea-pin-Bewegung. Bis 1857.
V. Der Lorcha-Krieg. Bis 1858.
VI. Die Operationen der Gesandten bei Ta-ku 1859 und der englisch-französische Feldzug gegen Pe-kin 1860

REISEBERICHT.
XIII. Shang-hae. Vom 7. März bis 22. April 1861.

VOL. 4
REISEBERICHT.
XIV. Reise der Arkona von Wu-son nach der Pei-ho-Mündung. Vom 23. bis 29. April 1861
XV. Tien-tsin. Vom 29. April bis 30. Juni 1861
XVI. Tien-tsin. Vom 30. Juni bis 11. September 1861
XVII. Ausflug nach Pe-kin. Vom 10. September bis 6. October 1861
XVIII. Abreise von Tien-tsin. Reise der Arkona von der Pei-ho-Mündung nach Nagasaki und Hong-Kong. Vom 7. October bis 11. November 1861
XIX. Hong-Kong. Kanton. Macao. Vom 11. November bis 5. December 1861
XX. Reise der Arkona von Macao nach der Rhede von Paknam. Vom 5. bis 14. December 1861
XXI. Bankok. Vom 23. November 1861 bis 30. Januar 1862
XXII. Ausflug nach Phrabat. Abreise aus Siam. Reise der Arkona nach Singapore. Vom 30. Januar bis 3. März. Schluss

Anhang I. Der Vertrag mit China
Anhang II. Der Vertrag mit Siam
Anhang III. Die Auswechselung der Ratifications - Urkunden in Shang-hae
Anhang IV. Das Ende der Tea-Pin
Litterature / Register zum III. und IV. Bande

復刻集成　19 世紀英国のアジア・イメージ

—ヴィクトリア時代評論誌所収論文選集—　全 6 巻＋別冊日本語解説

Asian Images in the 19th Century British Reviews

残部僅少

【編集・解説】東田雅博（金沢大学文学部教授）

2008 年 2 月刊行　A5 判・約 3,200 頁　本体セット価 ￥138,000-（＋税）　ISBN: 978-4-902454-24-6

本書の特色

- **英国ヴィクトリア朝社会の観念＝「文明化の使命」が醸成された場、評論誌で展開されたアジア 3 国に関する重要な論述を精選収録**
- **近代英国のアジア・イメージ、さらに英国自身の帝国イメージの変遷を辿る好企画**
- **経済のみならず科学技術、芸術、文芸、教育、法制度、布教など多様な視角から論文記事を選出**

【日本】　Vol. 1-2 : Japan　Vol. 1: 461pp,　Vol. 2: 481pp（38 文献）**※Japan のみ分売可**

約 900 頁　ISBN 978-4-902454-97-0 本体セット価￥46,000-（＋税）**◆限定販売 10 セット◆**

●ヴィクトリア時代を代表する総合・評論誌が 19 世紀後半に掲載した日本関連の記事・論文より 38 件を精選し、復刻収録。オルコック、オリファント、ディキンズ、コンダー、ダグラスなど英国の著名ジャパノロジストの寄稿論文をはじめ、19 世紀に刊行されていた主要日本研究書の書評も多数含む。

【中国】　Vol. 3-4 : China　Vol. 3: 482pp, Vol. 4: 521pp**（40 文献）**

【インド】Vol. 5-6 : India　Vol. 5: 604pp, Vol. 6: 580pp**（41 文献）**

【編者の言葉】

金沢大学文学部　東田雅博

ヴィクトリア朝英国の評論誌はどれくらいあるのだろうか。The Wellesley Index に掲載されているものだけでも 40 を越える。これらの評論誌には、きわめて多様な論文が掲載されている。ためしに、アロー戦争が終結した 1860 年 1 月号の『クォータリー・レヴュー』*Quarterly Review* の目次を見てみよう。オーストラリア植民地と金の供給、綿紡績機、中国と戦争、ローマの壁、宗教的リヴァイヴァル、改革計画、こうした論文が掲載されていた。実に多様である。

これらの多種多様な論文を掲載していた評論誌は、イギリスの文化と歴史に関心を持つ者には資料の宝庫といってよい。しかし、これらの雑誌の紙質はかなり劣悪であり、そのコピーを入手するのも困難になりつつある。大学によっては、コピーを禁じているところもある。適当なテーマでまとめたこれら雑誌論文の復刻資料集が求められていると言えよう。

この度これらの評論誌から 4 誌を選び、そこに掲載された日本、中国、インドに関する論文をまとめた資料集が刊行されることになった。『クォータリー・レヴュー』、『エディンバラ・レヴュー』*Edinburgh Review*、『ウェストミンスター・レヴュー』*Westminster Review*、『ブラックウッズ・マガジン』*Blackwood's Edinburgh Magazine* の 4 誌である。少なすぎるかもしれない。だがこの時代に刊行されていた評論誌はかなり多いが、ヴィクトリア朝時代を通じて発行されていた雑誌は意外に少なく、*The Wellesley Index* に掲載された雑誌の中では、これらの 4 誌のみである。さらに、これらの 4 誌は、それぞれ保守、自由、急進、トーリーというヴィクトリア朝の主要な政治的立場を代表してもおり、4 誌の選択はバランス的にも問題がない。

先に述べたが、これらの雑誌論文は多種多様である。その中に、先の『クォータリー・レヴュー』の例にあるように、日本や中国、あるいはインドなどのアジア諸国に関係する論文も含まれていた。これらの論文を読むことでヴィクトリア朝英国におけるアジア観と英帝国のセルフイメージの変遷がかなりあざやかに浮かび上がるであろう。また、日本、中国、インドに対する認識の差異も理解できるであろう。

近年のアジア観、より広くオリエンタリズム研究の資料はきわめて多様になっている。言説資料でも、たとえば *Penny Illustrated Paper* のような大衆的な資料も入手できるようになっているし、絵画やイラスト、あるいは写真なども大いに利用されている。しかし、それでも『クォータリー・レヴュー』などの雑誌論文の資料的価値が減じるわけではない。

本コレクションを、専門研究者および、関連する学術機関・図書館に広く推したい。

図説百科　極東アジアの近代

～中国・香港・マラヤ・オランダ領インドネシア～

【英文・復刻版】　全３巻

Present-Day Impressions of the Far East

and Prominent & Progressive Chinese at Home and Abroad, the History, People, Commerce, Industries, and Resources of China, Hongkong, Indo-China, Malaya, Netherlands India

Managing Director: W. H. Morton-Cameron / Editor-in-Chief: W. Feldwick

2012 年 1 月刊行（図版・地図 21 点）　本体セット価￥118,000-（＋税）ISBN: 978-4-86166-153-2

（底本：London&Chicago:Globe Encyclopedia, 1917 年刊行）　A4 判・約 1,220 頁（図版白黒多数＆カラー図版・地図 21 点）

2500 点以上の写真と図版で 20 世紀初頭の東アジアを西洋に紹介した大ヴィジュアル百科

- 20 世紀初頭に英米で刊行されたヴィジュアル版アジア百科の復刻版。
- 新世紀に入り国際政治や商業・貿易だけでなく、ビジネスの投資先としても重要度が増していた中国及びその周辺東アジア諸国に関する、当時最新の情報を網羅し多数の写真や図表とともに収録。
- 同出版社による『図説百科　近代日本とその植民地 - Present-Day Impressions of Japan』(小社より復刻版既刊) と合わせ、２百科で当時最大の東アジア情報源となるよう企画され、1917 年にロンドンとシカゴで刊行。
- 各国、各都市の歴史、地理、動植物、教育、宗教、文化、法律、政治、産業の詳説に加え、英字新聞社記者や商工会議所などの協力を得て、医療、治安、労働、交通など社会、生活に関する記述や各種統計も充実。
- 特に各地に進出していた、欧米や日本の商社、銀行、新聞、船舶業、製造業の活動については、支社の社屋やオフィス、駐在員や現地従業員の写真など、広く紙面を割いて紹介。
- 第 2 次大戦で失われてしまった、街並みや駅、港など公共建築物の貴重な写真に加え、政界、実業界で活躍した人物肖像写真も満載。
- 東アジア近代史、産業・経営・社会経済史、都市・建築史、比較文化学等広く研究、教育用の資料として利用可能。

THE FRENCH BUND, SHANGHAI

王立アヘン委員会調査報告書　全６巻

The Royal Commission on Opium, 1893-94:

Reports, Minutes of Evidence, and Appendices

新序文■ Joyce A. Madancy, Union College, Schenectady, NY

2003 年 4 月刊行　A4 判・約 2,650 頁　本体セット価 ￥148,000-（＋税）　ISBN 978-4-901481-47-2

残部僅少

本書の特色

- **グラッドストン内閣の王立アヘン委員会公式調査報告書を完全復刻**
- **Irish Univ. Press 版英国議会資料シリーズに未収録資料**
- **アヘン貿易に関わる様々な立場の人々から収集した 700 以上の証言を収録**
- **豊富な統計資料**
- **東アジア近代史や日本のアヘン政策の検証にも貴重な基礎資料**

19 世紀の東アジア政治と 20 世紀前半に日本がとった植民地政策にアヘン貿易は極めて重要な要素であり、その歴史にイギリスのアヘン政策があたえた影響は今日重い研究課題となっています。

イギリスにおけるアヘン貿易反対運動は、19 世紀前半非国教徒の主導のもとに始まりました。アヘン戦争当時、彼らはアヘン密貿易に反対する署名の提出などで、下院でアヘン貿易反対の討議を実現させました。その後、反対運動は一旦沈静化しましたが、1870 年代に再び高まりを見せ、1874 年にはシャフツベリー卿を会長とする全国組織「アヘン貿易反対協会（略称 S.S.O.T.）」が結成されました。1880 年前後になって S.S.O.T. は「中国に対するアヘン貿易強制の排除」を謳い、大きな国民的反響を呼び起こしました。こうして 1880 年代のイギリスは一大アヘン論争の時代を迎えます。高まる中国・インドのアヘン貿易批判に対応するため、1893 年にグラッドストン内閣は「王立アヘン委員会（The Royal Commission on Opium）」を設け、インドのアヘン生産とアヘン販売を中止すべきかどうか調査することを決定しました。アヘン貿易の実情と貿易停止の可能性について、9 名からなるチームが調査を行うことになったのです。委員たちはインドとビルマへ渡り、２年の月日をかけて貿易に反対を唱える人々と、アヘン貿易によって生計を立てている人々の双方から等しく聞き取り調査を行い、集められた証言をすべてまとめて調査報告書としました。それらの証言をもとに、委員会はアヘン貿易を続けるべきであるという結論を出しただけでなく、「適度なアヘンの服用は、英国における適度なアルコール飲酒と同様である」と宣言しました。これは反アヘン貿易派を落胆させ、アヘン貿易反対運動に大変な打撃を与えました。そして 1907 年に「中英禁煙協定」が締結されるまで、さらに 10 年以上もアヘン貿易を容認する結果を招きました。

アヘンはアジアにおける英国植民地政策にとって重要な経済基盤のひとつであり、アヘン貿易の是非には相当な政治的思惑が絡んでいました。そのため王立アヘン委員会はアヘン製造・販売の禁止がもたらす財政状況と、麻薬が多くの中国人とインド人の体と心を蝕んでいるという証言をはかりにかけねばなりませんでした。そしてこの時委員会が出したアヘンを肯定する結論が、その後の日本が中国で展開するアヘン専売政策にも影響を与えたとも考えられます。

本書は王立アヘン委員会の詳細な報告書とその補遺版をすべて忠実に復刻するものです。報告書には宣教師、農民、外交官、医師、商人といった人々からの 700 を超える証言が収録されており、それらの大部分が非ヨーロッパ人から採録されたものです。またアヘン貿易をさまざまな角度から検証する信頼性の高い統計資料や、アヘン貿易に関する歴史的解説、詳細な項目索引やインド用語集なども付されており、19 世紀から 20 世紀のアジア世界にアヘンが与えた影響を検証するまたとない基礎資料としてお勧めいたします。

■収録明細■

Vol. 1: First Reports of the Royal Commission on Opium, with Minutes of Evidences and Appendices

Vol. 2: Minutes of Evidence taken before the Royal Commission on Opium between 18th Nov., and 19th Dec. 1893 with Appendices

Vol. 3: Minutes of Evidence taken before the Royal Commission on Opium from 3rd　to 27th Jan. 1894

Vol. 4: Minutes of Evidence taken before the Royal Commission on Opium from 29th to 22nd Feb. 1894 with Appendices

Vol. 5: Proceedings., Appendices; together with Correspondences on the Subject of Opium with the Straits Settlements and China, etc.

Vol. 6: Final Reports of the Royal Commission on Opium, with Annexures & Supplement to the Report of the Royal Commission on Opium, Note by the Hon.
The Maharaja Bahadur of Durbhanga

モダン・ツーリズム・ライブラリー（Modern Tourism Library） 第１回配本

鉄道院編纂 東亜英文旅行案内 【復刻版】 全５巻＋別冊解説

An Official Guide to Eastern Asia: Trans-continental Connections between Europe and Asia

Prepared by Imperial Japanese Government Railways

【復刻版監修・解説】老川慶喜（立教大学経済学部教授）

2008 年 9 月刊行　本体セット価￥128,000-（＋税）　ISBN: 978-4-86166-087-0
＊総頁数：約 2,500 頁（折込カラー地図多数）　上製・A5 判（ポケットサイズの原本を 30％拡大）

Vol. 1: Manchuria & Chosen, 1913　［朝鮮／満洲］
Vol. 2: South-Western Japan, 1914　［南西部日本］
Vol. 3: North-Eastern Japan, 1914　［北東部日本］
Vol. 4: China, 1915　［中国］
Vol. 5: East Indies. including Philippine Islands,Frenchi Indo-China, Siam, Malay Peninsula and Dutch East Indies, 1917
［東インド ーフィリピン、仏領インドシナ、蘭領インドシナ、海峡植民地ー］

本書の特色

●満鉄総裁時に後藤新平が発案、後に鉄道院総裁になるや直ちに着手した『英文東亜案内』全５巻の完全復刻。
●日本人の手により真の日本文化と日本精神を全世界に宣伝し、後藤新平の描いた「世界の日本」から「日本の世界」への躍進を支援する目的で、厖大な予算（当時の金額で約 20 万円）で事業化し出版された、日本人自身による初の海外向け公式旅行ガイド。約８年の歳月をかけ完成。
●ドイツの『ベデカー旅行案内』やその他の欧米人の日本旅行ガイドをはるかにしのぎ、各地の歴史、地理、文化も含め詳細な案内を多くの写真図版、地図とともに掲載。
●日本、極東地域のガイドとしてながく権威を保ったが、なかでも満州、中国に関する巻は、1960 年代になるまでこれ以外の欧文旅行ガイドが出版されなかったこともあり、重要な資料とされる。

※『正伝 後藤新平』第５巻「第二次桂内閣時代 1908 ～ 16 年」第 5.11 章『東亜英文案内』参照。

■監修者のことば──『東亜旅行案内』（英文版）の復刻に寄せて■

老川　慶喜（立教大学経済学部教授）

日本の鉄道は、1906 年から 07 年にかけて主要私鉄 17 社が国有化された。また、1906 年 11 月には南満州鉄道が設立され、1908 年 12 月には鉄道院が設置された。満鉄も鉄道院も初代総裁は後藤新平で、それからほぼ 100 年の年月が経過した。後藤新平の事業はきわめて多岐にわたるが、『東亜旅行案内』（英文版）の企画と刊行もそのひとつである。

後藤新平は、日露戦争後に逸早く訪露を実現し、満鉄と東清鉄道の連絡運輸開始に関する交渉を行い、西欧と東アジアを結ぶ大陸横断鉄道を完成させた。また、朝日新聞は、日露戦後における日本の国際的地位の向上と経済力の拡大を背景に、イギリスのトマス・クック社と提携して、「世界一周旅行」を企画した。大陸横断鉄道の開通と海外旅行ブームのなかで、鉄道院総裁の後藤新平は、欧米の旅行者への東アジアに関する情報提供を目的に、『東亜旅行案内』（英文版）の刊行を企画した。

後藤新平の調査好きはつとに有名であるが、『東亜旅行案内』の刊行にあたっても、*20* 万円以上の巨額な予算を組み、専門家を現地に派遣して徹底した現地調査を実施し、膨大な資料を集めた。そして、「満州・朝鮮」（*1913* 年 10 月）、「南西日本」「北東日本」（1914 年 7 月）、「中国」（1915 年 4 月）、「東インド」（1917 年 4 月）の 5 冊を刊行した。

『東亜旅行案内』は、単に旅行上必要な情報ばかりでなく、欧米の実業家や資本家の投資を促すために、東アジアの産業や貿易についても詳細な調査を実施し、かなりの頁を割いている。したがって、交通史研究や後藤新平研究にとってはもちろん、アジアの「文明国」となった日露戦後の帝国日本と東アジア諸地域との関係を考える上からも、きわめて貴重な資料といえる。『東亜旅行案内』全５巻をすべて所蔵している機関はほとんどないので、同書の復刻はまことに時宜を得たもので、研究者には大いなる福音といえよう。

フィラデルフィア万国博覧会（1876 年）

―公式資料と日本関連文献集成―　全 5 巻＋別冊解説

International Exhibition of 1876 in Philadelphia:

A Collection of Official Records and Miscellaneous Publications

【監修・解説】大井浩二（関西学院大学名誉教授）

2014 年 4 月刊行　A4 判・総約 2,650 頁　本体セット価￥138,000 (＋税)　ISBN: 978-4-902454-85-7

- 1876 年 5 月 10 日から 11 月 10 まで、アメリカ独立 100 年を記念して開催されたフィラデルフィア万博は、アメリカの成長と進歩の宣伝を目的としたアメリカの工業製品などの展示とともに、海外からも 30 か国以上が参加、7 つの主要会場を含む広大な敷地には約 250 のパヴィリオンが作られ、978 万人を超える入場者があった。
- 日本はウィーン万博に続き 2 度目の公式参加をはたし、会場内に日本家屋を建て、陶磁器を中心とした工芸品をジャポニスムブーム最中の欧米に紹介した。また本万博は、翌年から日本で開催が始まった「内国勧業博覧会」のモデルとなったことも指摘されている。
- 今回まとめられる本万博の初の資料集には、会場で販売されたガイドおよび出展品の公式目録と図入り万博史、そして日本政府の出品目録に『日本史略』と題された同万博用の英文日本紹介冊子を加え、全 6 点の資料を 5 巻に収録する。
- 西洋近代史研究やアメリカ史、アメリカ文化研究だけでなく、国際文化接触、多文化研究、メディア研究など、多様な視点から研究の進む初期万博研究の基礎資料として必要不可欠な文献集。

■収録文献■

Volume 1：［ガイドブックおよび日本関連資料］**総約 435 頁**

Visitors' Guide to the Centennial Exhibition and Philadelphia, 1876

Magee's Illustrated Guide of Philadelphia and the Centennial Exhibition: A Guide and Description to All Places of Interest in or about Philadelphia, to the Centennial Grounds and Buildings, and Fairmount Park, 1876

『費府博覧会日本出品目録』

International Exhibition, 1876, Official Catalogue of the Japanese Section and Descriptive Notes on the Industry and Agriculture of Japan, 1876

『日本史略』

The Empire of Japan, Brief Sketch of the Geography, History and Constitution, 1876

Volume 2-3:［公式出品目録］**総約 1,210 頁**

United States Centennial Commission

International Exhibition 1876, Official Catalogue, 1876, 2vols.

Volume 4-5:［図説万博史］

James D. McCabe

The Illustrated History of the Centennial Exhibition Held in Commemoration of the One Hundredth Anniversary of American Independence, 1876, 2vols.

万国宗教会議　第 1 回 1893 年大会講演集　全 2 巻 ＋ 別冊解説

The World's Congress of Religions:

The addresses and papers delivered before the Parliament,
and the Abstract of the Congresses, held in Chicago, August 1893 to October 1893,
under the Auspices of The World's Columbian Exposition

編集■ J. W. Hanson

解説■足羽與志子（一橋大学大学院社会学研究科・社会学部教授）

2005 年 12 月刊行　約 1,200 頁（図版約 150 点）　本体セット価 ￥47,500-（＋税）　ISBN 978-4-901481-98-4
底本 : The Official Publishers of the World’s Columbian Exposition Catalogue, 1893

19 世紀末のアメリカに全世界の宗教家が初めて集った記念すべき大会の全記録

1862 年国際博覧会（第 2 回ロンドン万国博覧会）資料総覧

～公式図解カタログと『絵入り家庭新聞』国際博覧会特集～ 【復刻版】全 5 巻＋別冊解説

The International Exhibition of 1862, London:

Official Illustrated Catalogue & Cassell's Illustrated Family Paper Exhibitor

【監修・解説】松村昌家（大手前大学名誉教授）

2014 年 2 月刊行　本体セット価￥168,000-（＋税）　ISBN: 978-4-902454-82-6
総約 3,400 頁（全 5 巻＋別冊）折込地図・図版（一部カラー）多数 / 判型：B5 判（第 1-4 巻）、A4 判（第 5 巻）

1862 年にロンドンで開催された国際博覧会（第 2 回ロンドン万国博覧会）は、アルバード公死去翌年の開催だったこともあり、水晶宮で行われた第 1 回ほど華やかさに欠けてはいましたが、世界各地より 39 か国が参加、1862 年 5 月から半年間に 610 万人が来場し、会場のスペース含めその規模において第 1 回ロンドン万博を上回るものでした。クリミア戦争や植民地インドでの反乱などを経験した英国でのこの万博は、大英帝国の国家主義が強く打ち出され、軍需産業品や最新の工業製品が広く展示されましたが、また同時に、植民地各地の展示やライバルのパリ万博を意識した美術・工芸品の展示にも大きなスペースを割き、ヴィクトリア中期の大英帝国や世界の最先端の科学・技術、文化・芸術が結集した歴史的なイヴェントでした。

幕末の日本からは、正式な出展はなかったものの、初代駐日英国公使ラザフォード・オールコックが自身の日本美術品のコレクションを多数出品し、イギリスのジャポニスム・ブームに火をつけることになりました。また、開港延期の交渉に幕府より派遣されていた文久遣欧使節はこの万博の開会式に賓客として出席しましたが、使節団の中には福澤諭吉、福地源一郎らも含まれており、彼らがアームストロング砲など西洋の最新兵器や技術に大きな刺激を受けたことは想像に難くありません。

今回の復刻資料集には、第 1 回ロンドン万博から第 2 回万博に至る歴史などの解説を含む英国展図入り目録全 2 巻に、植民地や海外各国の目録各種をまとめ全 4 巻で刊行された公式資料集に、キャッセル社が発行した『絵入り家庭新聞』の国際博覧会特集を加え全 5 巻にて出版いたします。いずれも初めて復刻される資料です。博覧会史、ヴィクトリア朝研究、大英帝国史、日英交流史などから産業史、社会経済史研究まで、分野を超えてご利用いただける文献集です。

■ CONTENTS ■

Volume 1-4：The Illustrated Catalogue of the International Exhibition of 1862, London, Printed for Her Majesty's Commissioners

Vol. 1 (c. 835 pp.) : *The Illustrated Catalogue of the Industrial Department, British Division* - Vol. I
Grand Plans of Building and of Galleries
A Concise History of the International Exhibition of 1862

Vol. 2 (c. 875 pp.): *The Illustrated Catalogue of the Industrial Department, British Division* - Vol. II

Vol. 3 (c. 560 pp.): *The Illustrated Catalogue of the Industrial Department, Colonial and Foreign Divisions*
Colonial Possessions: Australia, South / Australia, Western / Bahamas / Barbados / Bermuda / Borneo / British Columbia / Canada / Cape of Good Hope / Ceylon / Channel Islands (Jersey and Guernsey) / Dominica / Hounduras, British / Jamaica / Malta / Mauritius / Natal / New Brunswick / Newfoundland / New South Wales / New Zealand / Nova Scotia / Prince Edward's Island / Queensland / St. Helana / St. Vincent / Tasmania / Trinidad / Vancouvre / Victoria

A Classified and Descriptive Catalogue of the India Department
The Illustrated Catalogue of the International Exhibition, Foreign Division
Africa, Central / Africa, Western / Belgium / Brazil / China / Costa Rica / Denmark / Ecuador / France / France, Colonies of

Vol. 4 (c. 780 pp.): *The Illustrated Catalogue of the Industrial Department, Foreign Division*
Germany: Austria at the International Exhibition of 1862
Hanse-Towns / Mecklenburg-Schwerin
Special Catalogue of the Zollverein-Department, First Division
Special Catalogue of the Zollverein-Department, Second Division
Greece / Hawaiian or Sandwich Islands / Hayti / Ioneian Islands / Italy / Japan / Liberia / Madagascar / Netherlands, The / Norway / Peru / Portugal / Rome / Russia / Siam / Spain / Sweden / Switzerland / Turkey / United States / Uruguay / Venezuela

Vol. 5 (c. 315 pp.): *Cassell's Illustrated Family Paper Exhibitor - containing About Three Hundred Illustrations, with letter-press descriptions of all the principal objects in The International Exhibition of 1862*, Published by Cassell, Peter, & Galpin, London, 1862

日英博覧会（1910 年）－公式史料と関連文献集成－

【復刻集成版】 全 11 文献・合本 6 巻＋別冊解説（日本語）

The Japan-British Exhibition of 1910:

A Collection of Official Guidebooks and Miscellaneous Publications

【監修・解説】松村昌家（大手前大学名誉教授）

2011 年 11 月刊行　約 3,500 頁（折込地図、図版（一部カラー）多数）　判型：第 1-2 巻：A5 判　/　第 3-6 巻：A4 判
本体セット価￥148,000-（＋税）　ISBN: 978-4-902454-75-8

20 世紀初頭の英国に、近代日本と台湾、朝鮮、満州を紹介した最大級のイベント

- **1910 年にロンドンにて開催された日英博覧会に関する、英文公式史料と博覧会に合わせて刊行された関連英文文献をを集成する初の本格的史料・文献集**
- **英国や日本で刊行された英文による入場者向けガイドやカタログ、開催後に発表されたレポートに加え、この博覧会開催に合わせて刊行されたロンドン･タイムズ紙の日本関連記事集成、日本の英字新聞ジャパン･ガゼット社刊行の英国産業界向けの日本案内、政治家で英文通信社の経営にも携わっていた望月小太郎が、博覧会記念に出版した 800 頁を超える日本を宣伝用の大著『今日の日本』など、周辺の英文書も同時に復刻**

●収録内容●

■ VOL. 1-3: OFFICIAL GUIDE, CATALOGUES & REPORT OF THE EXHIBITION

VOL. 1: ***Japan-British Exhibition, 1910, Shepherd's Bush London, Official Guide***, 2nd ed. revised.
London: The Japan-British Exhibition British Commission, 1910, c. 185 pp. (fold maps & numerous plates, some in colour)
Japan-British Exhibition, 1910, Shepherd's Bush, London, Official Catalogue, 3rd ed.
London: The Japan-British Exhibition British Commission / Bemrose & Sons, 1910, c. 342 pp.
Imperial Geological Survey of Japan: with a Catalogue of Articles exhibited at the Japan-British Exhibition held at London, England in 1910, Tokyo: Imperial Geological Survey, 1910, c. 102 pp. c. 102 pp. (fold maps)

VOL. 2: ***An Illustrated Catalogue of Japanese Old Fine Arts displayed at the Japan-British Exhibition, London, 1910.***
Tokyo: The Shimbi Shoin, 1910, c. 255 pp. (numerous plates)
An Illustrated Catalogue of Japanese Modern Fine Arts displayed at the Japan-British Exhibition, London, 1910.
Tokyo: The Shimbi Shoin, 1910, c. 181 pp. (numerous plates)
Kyoto, [Handbook] issued by Kyoto's Exhibitors' Association to the Japan-British Exhibition 1910.
Kyoto Exhibitors' Association, 1910, c. 160 pp. (plates some in colour)

VOL. 3: ***Official Report of the Japan British Exhibition, 1910, at the Great White City, Shepherd's Bush, London***
London: Printed by Unwin Brothers, 1911, c. 559 pp. (numerous illustrations and a fold map)

■ VOL. 4-6: MISCELLANEOUS PUBLICATIONS RELATED TO THE EXHIBITION

VOL.4: ***The Japanese Empire: A Reprint of the Times Japanese Edition, July 19, 1910***
London: J.P. Bland, 1910, c. 445 pp. (fold maps & numerous plates)

VOL. 5: ***The World's Work, June 1910, a Japanese Number (The Alliance and the Empire / The Manchurian Railway / The Japan-British Exhibition)***, London: William Heineman, 1910, c. 110 pp. (plates)
Japan Alliance Exhibitional: to promote Anglo-Japanese Commerce
Yokohama: Japan Gazette, 1910, c. 239 pp. (fold map & numerous plates, some in colour)

VOL. 6: ***Japan To-day; a Souvenir of the Anglo-Japanese Exhibition held in London 1910 (a Special Number of the "Japan Financial and Economic Monthly"), by Kotaro Mochizuki.***
Tokyo: "The Liberal News Agency", 1910, c. 892 pp (fold map & numerous plates, some in colour)

女性と大英帝国：

18 世紀初頭～ 20 世紀初頭の一次資料集成　全 5 巻

Women and Empire, 1750-1939: Primary Sources on Gender and Anglo-Imperialism

ES Series: *Historical Studies of Women's Studies*

編集・解説：　Susan K. Martin, LaTrobe University, Australia (Volume I: Australia);
Caroline Daley, University of Auckland, New Zealand (Volume II: New Zealand);
Elizabeth Dimock, LaTrobe University, Australia (Volume III: Africa);
Cheryl Cassidy, Eastern Michigan University, USA (Volume IV: India);
and Cecily Devereux, University of Alberta, Canada (Volume V: Canada)

2009 年 2 月刊行　総約 2,000 頁　本体セット価￥98,000-（＋税）　ISBN 978-4-901481-95-3

大英帝国と女性の関わりに関する文献を、植民地地域毎にまとめます。各地に駐在した外交官や実業家の妻たち、女性旅行家、宣教のためキリスト教団体から各地に送られた女性宣教師、ジャーナリストや女医などの職業人等々、19 世紀から 20 世紀前半に活躍した英国女性（一部米国人も含む）による日記、手記、書簡、新聞や雑誌記事、そして各種団体の文書など一次資料 330 点強を、各分野専門研究者が選書、解説を付しています。

【対象地域】
第 1 巻： オーストラリア　(111 文献)　/　第 2 巻： ニュージーランド　(83 文献)
第 3 巻： アフリカ　(72 文献)　/　第 4 巻： インド　(31 文献)　/　第 5 巻： カナダ　(39 文献)

＊収録文献の明細は **http://www.aplink.co.jp/synapse/4-901481-95-3.html** でご覧いただけます。

帝国史のなかの子ども

—19 世紀～ 20 世紀初頭の史資料復刻集成—　全 4 巻

Children and Empire

Edited and Introduced by Cheryl M. Cassidy & Andrea Kaston-Tange, Eastern Michigan University, USA

2012 年 12 月刊行　234 x 156 mm・約 1,600 頁　本体セット価￥88,000-（＋税）　ISBN 978-4-86166-176-1

- **好評既刊『女性と大英帝国』に続く帝国史関連一次文献集成の第 2 弾**
- **英米を中心に子どもと帝国主義に関わる多様な史資料 180 点弱を復刻収録**
- **子どものありかたが大きく変わった１９世紀における、国家の理想とする子ども像や国家間の差違、身体、育児、教育、道徳、遊び、労働、移民、キリスト教宣教など多様な問題に同時代の文献でせまる画期的資料集**
- **同時代の新聞・雑誌記事、書籍からの抜粋に加え広告、写真図版も多数掲載。編者による詳細な解題付**
- **英米帝国史、英米児童教育・文学・文化研究に必携**

■各巻構成■

Volume 1: The "Civilizing" Mission: Education, Morality and Conversion
Volume 2: Management of Children: Life in Sickness and in Health
Volume 3: Migrations and Cultural Differences: Children throughout the Empire
Volume 4: Empire's Children at Home: The Domestic Impact of a Presence Abroad

※収録文献の詳細は、**http://www.aplink.co.jp/synapse/4-86166-176-1.html** でご覧いただけます。